

幼児の教育

第六十三卷

第十二号



12

日本幼稚園協会

TOSHI

幼稚園教育要領解説

フレーベル館
新刊書

- 編集委員全員による新しい教育要領の詳細な解明
 - 現場の実践への手引き書です
 - 幼稚園教育要領全文および関係法令他掲載
- 坂元彦太郎編 A 5判 208頁 320円 70円

1・2才児の保育

- 長年保育の現場で活躍してきた著者達が、その経験と理論をわかりやすく解説した乳幼児保育の参考書です。
- 秋田美子編 A 5判 274頁 500円 100円

幼児の言語教育

- 新しい教育要領に基づき、わかりやすく、教えやすく、「言語」教育ができるように理論に立脚して編集しています。
- 幼児言語教育協議会編 A 5判 168頁 280円 70円

紙芝居です
幼児のための



'64年度幼児テキスト紙芝居全集第9回配本中

さむいといっぺなまけたら

¥ 350

冬の保健
画・野々口重

ガタガタゴットンおんぼろぐるま

¥ 350

ちからをあわせて
画・森国トキヒコ

しょうぶにそだてる
よいこの保健

監修 愛育会幼稚園 植松治子

¥ 1000 B 3版 10枚

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17〔振替東京〕株式会社 教育印刷
TEL (341)3400・3227・1458 (29855)



幼 児 の 教 育 目 次

——第六十三卷 十二月号——

表 紙 鈴 木 寿 雄

教材研究

幼児教育と教具.....	牛島 義友.....(2)
保育教材のアイデア.....	林 健 造.....(6)
製作のための材料・素材の基礎知識(一).....	砂 場 三 郎.....(11)
紙製作材料の基礎知識(四).....	佐 藤 諒.....(16)
ケニヤに使用して(三) ケニヤの家庭生活.....	南 信 子.....(21)
幼児期における言語障害児の導き方.....	田 口 恒 夫.....(25)
ガンバリの力を育てる遊びと素材 (その三) 空カン.....	清 水 エ ミ 子.....(32)
幼稚園教育実習をめぐる諸問題.....	一 盛 久 子.....(45)
幼稚園教育に対する母親の意見.....	稲 毛 教 子.....(50)
ヨーロッパの旅(六).....	平 井 信 義.....(55)
* 総目録.....	(61)

幼児教育と教具



牛 島 義 友

教具とは「教授に要する図書、器械、標本の総体」と言う人もあるが、その「教授を具体化するための直観的方便物」として教科書や学用品と区別して直観のための標本や図表をさす人もある。これはフレーヘル之恩物、モンテッソリーの教具にはじまるとされている。すなわち今日の学校教育において欠くことのできない教具は幼児教育からはじまったものである。ところが今日、わが国の幼児教育においては、フレーヘル之恩物は使われず、モンテッソリーの教具など見たこともない人も多かろう。これに代る新しい教具が考案されているわけでもないし、教具の研究は影をひそめてしまった。

ヨーロッパの幼児教育においては、モンテッソリーの感覚訓練的

な教具が盛んに使われ、さらに子どもの興味に即した新しい教具がたくさん作られている。なぜ日本において教具が尊重されないのだろうか。

〈自由保育〉

教具は感覚訓練とか文字の学習とか言うようなはっきりした学習目標があつてそれを有効に習得するための道具である。このようにはっきりした教育目標がなければ教具の必要も生じてこない。わがくにの幼児教育も初期の段階ではフレーヘルの教育理念などが直輸

入され、当時の分析的な要素心理学の考えに基づいた個々の精神機能の訓練を行なっていた。しかし幼児教育においては個々の精神機能よりも子どもの生活そのものの充実に意を用い、知的機能のみならず情操や社会的機能の調和的育成を重視するようになり、自由保育が尊重され、今日においても経験学習と総合的保育が主流となっている。このことは、モンテッソーリ流の教具を廃棄することとなった。自由保育や生活学習では幼稚園の中に幼児の自然の生活を再現することが大切であるので、このために必要な材料は生活用品や自由遊びの道具が主になる。たとえば洗面器や食事のための机、食器も実は大事な道具であるし、昆虫や草花、あるいはままごと道具なども自由遊びの大切な道具となる。これらの道具はそれからいろいろの生活が発展していくことがぞましいので、単一の用途しかないものよりはあらゆる用途に発展使用できる素材的のものがより望ましいものと考えられている。たとえば積木は一定の形のみを作るのでなく、自由にいろいろのものを構成し、さらに構成したものを利用して他の遊びに発展するものの方が望まれる。フレーベルの恩物の積木はきめられた形と数で一定のモデルを模倣することが要求されるが、今日の積木は何を作ってもよいし、また作った家の中で、ままごと遊びができるために大型の箱積木などが歓迎される。

現代の保育において比較的教具的性格を残しているのは運動用具

だけであると言えよう。ブランコとか、わく登り、などは直接の生活と関係がなく、むしろ運動機能を発達させるためののみ、考案されたものである。すなわち子どもの運動能力と興味を考えながら新しい教具が工夫されてくる。生活学習の道具としては生活的なもの、日常生活と密接な連絡を持っているものがぞましいが、いわゆる教具は複雑な生活機能の中から特定の精神機能を取り出し、その訓練のために考え出されるものであるから日用品とは無関係な抽象的のものとなってくる。教具として精巧なものほどたった一つの目的にしか役立たなくなる。たとえば生活学習ならばヒスケットを与えてついでに数の勉強をさせることもできる。この場合のヒスケットはおやつにもなるし、数の計算の道具にもなるし、またごぼうびとして利用することもできよう。しかし計算を教えるために工夫された教師用のそろばんなどは計算学習にだけしか役立たないし、しかも大型であるので計算の実用にも役立たず、ただ教えることにだけ役立つ。あるいは人体の模型、ピストンの構造を教える教具などはいかに精巧にできていてもただ一つの教授目的にしか役立たないものである。しかしその一つの目的のためには何物にもまして有効な学習道具である。

今日幼児教育において、自由保育の精神が尊重されていることはありがたいことである。しかし領域別の保育が強調され、数やこと

ばの基礎学力の習得が要求されてくると、今までのような生活を豊かにする道具から、専門的な教具へと転換して行く必要も起こるのではなからうか。ドイツやフランスにおいて、モンテッソリーの教具や考え方が今でも尊重されているのは、実は先知主義的教育理念が背景に存するからである。特にフランスにおいては教育はすべてはつきりした目標のもとに計画されており、いかにしたら早く文字や数の学習ができるか、ということに力を注いでいるようである。

このためにはまず、形や大きさについての正しい弁別力の養成、習得が要求され、モンテッソリーのやり方が最も合理的なものとして使用されている。ことばの学習などでもただ子ども達が勝手に話し合う経験を通して習得はできるけれども、これに教具を利用すれば一層効果的であろう。絵本を見せて、話し合いを展開させることは自然の話し合いを待つよりは有効であるし、さらに親や先生とは話しても、人前では話す事のできない子どもには電話を使って社会的抑圧を減じて会話をさせるとか、二人だけの会話をテープに録音して、後でそれを皆の前で聞かせるといった方法で話す態度とか、あるいはその場合に必要なことがらを学習させることができよう。さらに文字を学習する場合には「文字板」を利用することは非常に有効である。この簡単な板きれば字を書くというむずかしい作業から一応解放してくれるし、自分が知っている数個のかなを組み

合わせていろいろのことばをよんだり構成させると、子どもは実に容易に興味をもってかなを覚えてしまう。

数の学習は教具なしではほとんど不可能である。このような文字や数についての基礎学力が幼児教育においても要求されてくると（これは世界の幼児教育のすう勢であって、ただわが国のみが必死になって、幼稚園からこれをしめ出そうと努力していたように思われる）当然これに関連した教具が必要になり、いろいろの新しい有効な教具が工夫されてくることであろう。

今日のわが国の幼稚園においては一応学習的のことは除外されている。しかし大都会の家庭では特定の小学校に入学するためにテストの練習が大はやりである。このテストはおよそ実生活と縁のない抽象的な精神機能の訓練である。機械的記憶力、図型の構成、などとモンテッソリー方式が実はそのままくり返しくり返し練習させられるものである。幼稚園でいくら自由保育をしても、テスト塾でこのような訓練が必要というのならば、幼稚園の中で無味乾燥としてすてられたモンテッソリー法をもう一度考え直すこともよいのではなからうか。もっとも私はテストの練習を奨励するのではなく、基礎的精神機能の訓練を計画的に行なうことを要請しているのである。

一斉保育を行なう時には子どもの興味や注意を一つに集めるために紙芝居、スライド、テレビなどの視聴覚教材や音楽リズムのためのピアノやレコード、あるいは製作のための材料などが用いられるが、この場合には特に保育のために工夫された道具というよりも一般の通信器具や楽器などが利用され、また新しい機械が発明されることによって保育の道具も豊富になる。しかし教育のために特別に工夫される道具は一斉保育よりも個別指導、あるいは普通教育よりも特殊教育において一層その重要性をましてくる。一斉保育についていけない子どもには精神機能、運動機能、あるいは性格のいずれかに欠陥や発育障害があると考えられる。このような子どもの指導には一般的の生活活動を刺激するだけでは不十分であって、問題となる精神機能を発見し、その機能を訓練するような特殊な指導が必要となってくる。こうなると一斉指導の道具では役に立たず、特殊な道具としての教具が考案されねばならぬ。

特殊教育の発達は教具の発達に依存するといってもよい。ここでは普通教育でなされる教材や教科書も役に立たず、算数や言語の最も基礎的機能の訓練からはじめねばならない。たとえば脳性小児マヒの言語指導では発音の前に吐く息の調節から教えねばならず、そ

のための教具が必要であり、あるいは運動機能の訓練のためには特殊器具が必要である。

しいのみ学園の山本先生はこのような教具をたえず工夫されて三百種以上の考案をされているが、ここではまさに手足の訓練を重視し、手は頭の外にある大脳であるという考えのもとで観念的な知識訓練ではなく、手を動かすことによって精神機能の訓練に力を注いでおられる。このような治療教育とか、個別的指導が重視されれば当然、治療的意味をもった教具が発達してくる。わが国の幼児教育で特殊の教具が発達しなかったのは一斉保育的態度が強くて個別的指導、特に問題をもった子どもへの指導の態度が少なかつたためではなからうか。

以上の事柄を反省してみると今後の幼児教育の一つの課題として新しい教具の開発が期待されるのではなからうか。成長した者にとっては言語による説明とか、理論付けが最もよい学習であるが、幼児においてはもっと具体的な直観的な方便物が必要であり、教具なしに幼児教育を考えることは不可能なはずである。さればこそフレールヘルやモンテッソーリはまず見物や教具の整備に力を注いだ。今日においても幼児教育が進歩するためにはそれにふさわしい研究がすすめられるべきではなからうか。

保育教材のアイディア



林 健 造

一、アイディアを生みだす眼

故里^{くりに}の友人が上京するという。「いいなあ、東京にいるんだから、刺激がいっぱいあるからな」そこで私はいう。「東京？

うるさいばかりだね。ときに刺激とは何だい。」「心ここにあらざれば、見れども見えず」じゃあないか」

たしかに何かを求める心があるからこそ、刺激はいたるころに転がっているといえるのだろう。保育教材のアイディアだって、きっと子どものまわりにいっぱいころがっているにちがいない。アイディアは、頭や心でみつけどすだけのものだが、あえてみつける眼とってみた。

みつける眼の基盤^{もと}になる心の条件には、こんなことが必要だ。

○びっくりする心

○日々新しくなろうとする心

○いろいろな角度をかえてきぐってみる心

○奇想天外なことを考えだす心

など。

二、日常の子どもの遊びから

1 陣とり

陣とりあそびというのがある。子どもが遊んでいるのを見るど、たいへんおもしろそうだ。いろいろな地方によってやり方も異なっている。これはただける。画用紙なり、大きな模造紙なりをグラウンドとして、二人とか四人とかで四隅から出発する。シャンケンをして勝ったら親指を中心に他の四指で扇形に

じんとり

$J=120$

じんとろじんとろじゃんけんぽん
 ばーでかったらあかいいろ
 ぐーでかったらあおいいろ
 ちょきでかったらきいろだよ
 じんとろじんとろじゃんけんぽん

とっていく。もちろん、画用紙の場合は、クレヨンで線をひいて色をぬっていく。回が進めば、ちょうど、日本の伝統的な紋様の青海波（鱗もよう）のような美しいもようができるという仕組である。そこで、こんなうたや曲（上記）を作ってみたがどうだろう。

陣とり

じんとろ じんとろ じゃんけんぽん
 ばあで かったら あかいいろ
 ぐうで かったら あおいいろ
 ちょきで かったら きいろだよ
 じんとろ じんとろ じゃんけんぽん

絵画製作に利用される子どもの遊びには、この外いろいろの形があつて「石けり」や、ばあをバイナッブル・ぐうをグリコ・ちょきをチョコレートなどと称して、その字数だけ歩数を進める遊びがある。子どもの遊びをよく観察してみると、随分造形的に話す要素をもったものがいろいろ発見されるものである。

2 血がみえる

秋晴れのひる。子どもたちが数人庭で、「血がみえるよ。血がみえるよ。」と大ききである。私もとびだしてみると、なんだ、太陽にすかした手の指の間が赤くみえることなのである。しかし彼らにとっては、たいへん不思議なことであり、とてもびっくりしたことなのであろう。

太陽にすかせばみえるということがこんなに大きな驚きならばということから、早速、教室でザラ紙を二枚渡し、一枚でもすきな形をきって、もう一枚にのりで貼らせ、これをおひさまにすかして見る遊びを試みた。さあたいへん、「見える？」ときくと、太陽にすかすまでが不安、すかしてみてびっくりしたように「あつ、先生見えた」と叫ぶ。「ほーらね、何もないでしょう。でもね先生、こうしてみたら」私から留ったくせに、私を無理やりひっぱって行って、見せる始末である。

三、かみくずはんこ

プリント遊びとか、かたおしとか、もっとしゃれた人だと「スタンピング」などということばを使うだろうが、わかりやすくいえば例のはんこおしである。

幼稚園などで、このはんこおし遊びをするために、

「あしたね、おいももってらっしゃい。それから、はすもいいわね。えーと、ほかにびんのふただのもってらっしゃい」などとその準備がまたたいへんやかいかである。お皿には、ガーゼか脱脂綿を入れて、絵の具をひたしておく。いもやはすをもってきて、これを庖丁で一人一人切ってやらなければならぬ。ああ忙しい。こういうことのために、紙くずはんこというアイデアはたいへん喜ばれるであろう。

画用紙の断ちくずをくるくる巻いて、あるいはまた、新聞紙を

一握りまるめただけでよい。これにすみや絵の具をつけて、ペたんこ、ペたんこ押していくというやり方である。そんな馬鹿な、という人があつたらやってみよう。なかなか美しい、興味深いプリント作品ができることうけあいである。

四、リレー画遊び

オリンピックのせいでもないが、リレーしてかく絵というのはどうだろう。いくつかやり方がある。前の人のかいた絵に画用紙をつないで、その続きをかくというのもある。紙芝居の形で次々物語りをかくのもある。これは黒板にかく、連想画リレーともいふべきものを紹介しよう。

まず先生は、単純なまるや三角やS字形などを黒板にかいておく。この形が何に見えるかを二、三度くりかえして連想あそびのトレーニンクをする。

さて、組をいくつかのグループに分ける。紅白二組なら、黒板に用意する教師の絵も二つにする。ゲームのはじめに、ルールを話す。

- a チョークはバトンだよ。
- b ひとりで一筆ずつかくこと。
- c まわりの人がああかけこうかけといわないこと。
- d 次々に一筆ずつかいて最後の人がかいたとき、どんな絵になったかを比べる。

といったことで始める。運動会と間違つて、チョークハトンを使うけると、馳けだす子がいる。一筆というのに、ずいぶん描いちやう子もいる。「ぜったいアトムにしてよ」などと、友だちにいう強制タイプもいる。その折、その時で適当に注意をしてやればよい。

「先生もう一回、またしてよ」

と子どもたちにせがまれることうけあい。

こんな絵画製作教材のアイディアは、あげればきりががない。こんどはこれよりも、もう少し大きなことをあげてみよう。

五、ウィーンの幼稚園

この春、ヨーロッパを巡った時、ウィーンの幼稚園を二つほど見る機会に恵まれた。静かな美しい都、ウィーンの幼稚園の白くすきとおるような皮膚のかわい子子どもたちを相手に、この先生も熱心である。日本の子ども達の絵をみせたら、先生も子どもたちもいっせいに「シェーン！」といっけて驚く。

案内してくれた女の指導主事さんから、

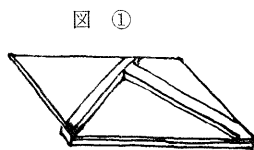
「日本の美術教育はすばらしいですね。それに、音楽教育もまたすばらしい」とおほほめにあずかって、本当かしらと半信半疑ながら、顔がほてって仕方がなかった。だって、ここは有名な音楽の国、しかも、近代美術教育の生みの親フランク・チェゼック先生の国だからである。

さてと、この一つの幼稚園は、ビルの四階にあるという変わったもの。エレベーターで昇る途中の壁は、のびのびとしたすばらしい幼児画でうめられている。どうしてかいたのか、なぜかいたのかなどという私の愚問に対して、途中でエレベーターを止めてはかかしたといっている。なるほど、このエレベーターは前の扉も、後の扉も開くのだ。

「エレベーターの、そして壁からくる子ども達の不安感をとりぬくためです」目的については明快な答えをきいて、なるほどと、その適切なアイディアにすっかり感心させられた。

五才児や六才児にも版画をさせている。丸刀でリノリウムや、ベニヤ板をほっている。作品もなかなか見事だ。

五、六才で彫れますかというのと、こんな道具を使っているのですと、いわゆる彫刻台を見せてくれた。なかなか考えてあつて、簡たんな仕組でうまくできている。(図①)



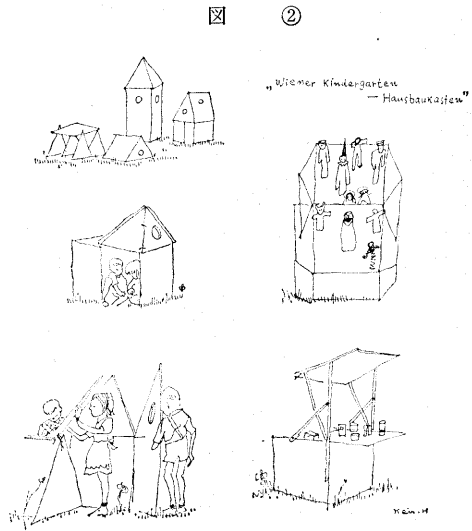
次は、遊具で、積木類もよく工夫されていたのであつたが、中でも一番感心したのは、建築ユニットとでもいうのか、ハードボードのような丈夫な板で、三角形とか、正方形とか、長方形のユニットができていて、これらには、中央に丸窓があけてある。このユニットの組合せによって図②のように、お家にも、お店や

さんにも、人形などを飾るパネルにもなるという便利なものがある。

第一、大きさが、そばにいる子どもと比較してみれば解るよ
うに大きいのがいい。

組立ても子どもでもできるために、子どもは全身を使って作業
できることと、ユニットをいろいろ組合せて作る過程で、創造
力が伸ばされるところが気に入った。

組立てられたものの、完成された形の中で容易に遊べるのだ
から、そのまま、子どもたちの遊びやくらしに役立つわけであ



る。一枚一枚の板には、ひもでむすび接合できるように穴があ
いているのであろう。日本にも、いろいろな遊具があるが、こ
のような入れる積木とでもいえそうな大きな遊具を考えて
やる必要があるのではなからうか。

六、イスラエルのドラムかん

この夏北海道で行なわれた日私幼大会の時に、札幌の先生が
スライドで見せてくれたイスラエルの幼稚園の遊具もおもしろ
い。その先生の解説によると、

「日本の人は、ものを大事にしない。イスラエルの幼稚園で
は、物資が豊かでないので、子どもは遊具などもなかなかそろ
えられないのでしよう。そこでPTAの親たちが、自分たちの
手で遊具を作ってやろうということになり、考えだしたのがド
ラムかんをタテに二つに切断して、舟のような乗り物を作った
り、すべり台みたいな昇ったり、おりたりする遊具を作って、
幼稚園の庭においてある。ドラムかんそのままでは、あまりに
も殺風景だということで、ラッカーで美しい模様をつけている」
スライドで見ると、この模様の色やパターンが実に美し
い。

ここにもまた、やむにやまれない愛情を基盤としたアイディ
アを生み出す眼がみられるではないか。

(お茶の水女子大学)

製作のための材料・素材の基礎知識 (一)

砂 場 三 郎



子どもの造形活動のための素材・材料といっても、どうしても教材屋さんが持つてくる二次製品的なものが主になって、素材や材料の本質をみうしないがちになります。これから三回にわけて、素材そのものについての本質をみながらそれを扱うための注意や留意点についてのべてみたいと思います。

しかし次にのべる材料は、子どもの活動の媒介物として直接役立たないかも知れませんが、一般的な教材の知識として、一読なされることもあながち無駄なことではないと思いますので……。

今回はその第一回目として可塑性といわれる石膏・セメン

ト・粘土について述べてみましょう。

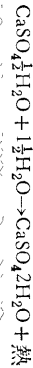
石 膏

石膏といえば展覧会でみる彫刻が代表的なものです。テレビにでてくる犯人捜査で足跡を取ったり、いろいろな面に利用されています。けがをした時ギブスをはめるといふことはききますが、ギブスとは石膏のことで、成型材として広く使われています。

扱い方によっては、幼稚園の教材としても可能でしょう。

●石膏の成分

典型的な硫酸塩鉱物で純粹なものは、酸化カルシュームと亜硫酸、それに水とからなっていますが、普通私どもが石膏といっているのは焼石膏のことで、これが水と反応して硬化することを利用したもので、水で溶くという意味と本質的に異なり化学反応をさせるというのが正しいでしょう。



焼石膏　　水　　硬化した石膏

このように石膏が硬化することは、焼石膏が、二分子の水を結晶水として持つことをいい、逆に焼石膏は、四分の三の水を放出した石膏ということになります。

焼石膏の特徴として次の点があげられます。硬化するとき加熱、圧縮などが不要である。硬体化されるとき、僅か〇・一五％ぐらいしか膨張しないため、型に流した場合などそれが型をより精密にするなど、成形材としての条件がそろっています。

●使用方法とその注意

石膏を溶く時の混水量は約七〇〜七五％といいますが、実際にはかることは困難ですから、まず容器に適量の水をいれ、焼石膏をばらばらと雪を降らせるように撒布し、水面上に山形に

積もるぐらいいれます。この時一度にいれ過ぎますと気泡の抱きこみや泡漿の不均一などの結果を招きますから、できるだけ均一に撒布するように注意してください。

撒布後一〜二分間放置しておくくと水に浸みわたりますから、よく攪拌して型に流します。なおこの時も気泡の抱き込みがなないように、型枠の隅の方から流し込むようにしてください。

次に離型ですが、流し込みして六〜七分で硬化をはじめ、約五分ぐらいで終了する性質をもっていますから、硬化終了直後、離型するのが最も効果的です。石膏像の型取りなどには、離型剤としてカリ石鹼溶液を塗布してくっつかないようにします。

実際に行なう場合、どうしても頭にいれておかなくてはならないことは、石膏は水と結びついたら、所かまわず硬体化してしまうこと、水道管の中、バケツの中、床の上、特に水道管などの中ではとりかえしがつきませんから、この点特に注意して、石膏を溶く容器も済んだらすぐ洗浄して次に使えるようにしてください。このようなものの容器は、スミの角ばらないボールのようなもの、できればゴムやビニール製の形の歪みやすいものを使えば一ばんよいでしょう。水をくんだり洗ったりするバケツもビニール布のようなものの中をおおって、その中に水を入れるようにすれば後の処理がらくになります。

石膏は硬化時間が短いので、粘土のように後で掃除すればよいなどの考えは禁物ですから、くれぐれも注意してください。

セメント

一般にセメントといえばコンクリートの材料のポルトランドセメントをさしているようで、その通りなんです。が、広い意味では接着剤という意味をもっています。

●成分

これはご存知のように原料は、石灰石と粘土を焼成して作るものですが、化学主成分はシリカ・酸化カルシウムがそのほとんどで、公園やフラワーガーデンで見受ける白い彫刻像の原料、白色セメントもこの普通のセメントの一種で、原料中の酸化鉄の少ないものを選んで作ったもので、塗装、美術品、子どもの造形活動によく使われています。

コンクリート、モルタル等といわれるものはセメント製品であることはおわかりと思いますが、セメント一・砂三・砂利六、または一・二・五の割合で混合したものをコンクリート、セメント一・砂二、の混合比で作ったものをモルタルとよんでいます。

●使用法及び使用上の注意

セメントといえど何か専門の分野のように思われ手を出しづらいですが、用具と順序だてさえ良ければそれほどむずかしいものではありません。ただ技術の上で私どもが考えているのと逆の場合が多いようです。

実際に混ぜ合す場合は、まず練板の上で砂と砂利を混ぜ合せ、そのあとセメントを混ぜてよく攪拌して、最後に水で練り合わせるのが順序です。

この時セメントの量が多ければコンクリートの硬度も増すかのように思われがちですが、これはあくまで砂利と砂を結合するための接着剤の役わりをするもので、セメントどうしだけの結合は逆に質を脆弱にします。

たとえば砂利とセメントだけで結合した場合、砂利の空隙をセメントで充填することになるので、どうしても脆弱になりますからこの空隙に砂が必要になるわけで、できれば砂利・砂の粒度の幅の広いほど理想的な結合になるといえます。

水はなるべく少なめに硬練りにすること、これも質を緻密にし耐久性を増すための必要条件の一つです。

はじめはどうしても練りづらいので水を混ぜすぎて、練り合せていくたびに水が表面に分離することが多いので、はじめ大

方の目やすをつけて、セメントの量の三分の二位を一度に入れてあとは練り合せながら徐々に注入する方法をとっています。

またセメントは二時間ぐらいたつと凝結をはじめますから、その前に使ってしまうと、凝結をはじめたものを使ったり、練り返したものはコンクリートとしての硬度がでませんので実際にやられる場合は、計画をたてて量をきめてください。

次に一番間違いやすいことですが、コンクリート打ちを早く固めるため、太陽の直射に当たったり、風にあてて乾かせばよいように思われがちですが、洗濯物ではありませんのでこれと全く逆の処置をとります。というのは、コンクリートに水分がある間はいつまでも徐々に硬度を増して行く性質を持っているということで、少くとも一週間は内部の水分を逃がさないように湿った布で覆うとか、ビニールをかぶせるなどの処置をします。歩道のコンクリートに濡れむしろを掛けるなどはそのためで、このように水分を外へ逃がさないようにすることを養生といっています。

公園などで見かける白い彫刻は白色セメントで、寒水石（大理石の粒や粉末）が砂や砂利のかわりに使われています。

彫刻像などの表面の全部、または一部が滑らかに仕上げているものがあるが、研ぎ出しといって流し込んで一兩日中ぐらい

に金剛砥のような砥石で水をつけながら磨き出したものでこのようなこともできます。

粘土

子どもの製作に使うもので利用範囲の広いものに粘土があります。

ひとくちに粘土といっても種類が多く、塑像用粘土、陶土、らく焼用粘土、テラコッタ、油土、その外教材用として乾燥後の割れをふせぐためにいろいろなものを添加した調査粘土、紙粘土などいろいろあり、用法に幾分違いのあるものも見られますが、ごく一般的な粘土についてのべてみましょう。

●成分

粘土というのは、石英や長石などの破片と、粘土鉱物といわれる含水珪酸塩鉱物の粒で、水を多く含むと粘りがでるものでその粒子は○・○一ミリ以下のをさします。地下から採集できる天然のものがあれば、多少夾雑物を含んでも子どもは人工的に調査したもののが大部分です。

●テラコッタ

ちよつと聞き馴れない言葉かも知れませんが、焼いた土というイタリア語で良質の粘土を素焼した土器類をさします。わがくにの土偶や埴輪などもテラコッタと見てしかるべきですが、現在では彫刻作品の素材をさす言葉になっています。

園児の製作の材料として取りあげてもおもしろいでしょう。

●使用法及び使用上の注意

さきにいろいろ粘土の種類を挙げましたが、これを教材として扱う場合は、子どもの本能的な造形活動の媒介物として考え自由な表現をさせてもよいが、成型・乾燥または焼成を目的とする場合は、それに必要な条件と技法が要求されますから、過程か作品か、その辺をはっきりねらいをつけて指導するようにしたいものです。

焼成を目的とした粘土工作には、いろいろの条件に支配されるので問題がありますが、子どものラフな表現を作品としてのごしたい場合は、テラコッタを使って焼くほうが無難でしょう。

焼成を目的としたり自然乾燥をねらう場合は次のような点に留意してください。

質の不均等をふせぎ粘土の収縮度を頭におくこと、よくわりばしなどを芯につかって人などを作らせることがあります。乾燥させるとぼろぼろにこわれてしまいます。これは粘土が湿っているうち石膏取りをすることを条件とした場合の技法で、乾燥にともなう収縮を考えた場合無意味な技法といえましよう。

質の不均等をふせぐため粘土のかたまりから大の字を作らせこれから手、足、頭として作らせることなども便利な方法です。

要は、焼成を目的としたものか、活動そのものが目的なのか、この点にはっきりねらいをおいて指導することがポイントになってくるでしょう。

粘土の保管は昔からめんどうなものでしたが、今はビニールがあるので乾燥をふせぐことができますから、粘土がめを利用して粘土を多量に保管して、子どもが自由に使えるような設備にしたいものです。かめで保管する場合も、濡れ雑布でおおった土にビニールを掛けておくような方法を取ってください。固まってしまった粘土は、めんどうでもなるべく細かく砕いて、水分を湿しながら練りあげて再生してください。

(東京都板橋区立稲荷台小学校)

紙製作材料の基礎知識 (四)



佐藤 諒

△材料体験と材料の可能性▽

わたしたちがものを作ろうとする時、どのように作ったらいかということと同時に、どんな材料で作ったらいかということが問題になります。作るものに適した材料を使用するということは、加工技術以前の大切なことであり、技術と材料を切りはなして造形を考えることはできません。

造形ということに、いろいろな定義がありますが、材料を人間の意志に従がわせることである、という見方もできましよう。がんらい人間は、その意志と行動を通して、材料を克服

し、いろいろな技術を開拓し、より豊かに、より快適に生きることに終始しています。人間が他の動物と異なるものとして、ホモ・ファールベル（工作人）などと呼ばれるのも、このようなことからです。

手足の自由が次第にたしかになって来た幼児が、はいずりまわりながら手にした紙をぐしゃぐしゃにまるめ、ひききいたり、破いたりしはじめます。はじめはなに気なしの身体動作の一環としてするのでしょうが、成育の進むにつれて、運動の快感と同時に、ものの変形の面白さにとりつかれるようになります。大人の目から見れば、たあいないうたあいらやでためであり、

あとかたづけをするのに大変なことで、つい小言をいいたくなるようなことですが、幼児はあきずに、繰り返し繰り返し、なんべんでも同じことをやっています。

幼児のこのような“材料とのふれあい”“材料のもてあそび”の意味あいには、味覚や嗅覚によって飲食物を選択し、身体の保全をはかるのに似て、触覚や視覚を通して本能的なものにふれ、いろいろなところに応じた反応をたしかめながら、ものそれ自身をよく知り、やがては自分の意志に材料を従わせようという現われと考えられます。

このような、人間が本来もっている材料体験の欲求を、子どものうちから充分満足させ、できるだけ多くの材料体験をさせ、それぞれの材料のもっている性質を知り、さらにその可能性に対するところを意識化し、自分の意志に応じた適切な材料を駆使することができるようにしてやらねばなりません。

このような体験が、大人になってからどれほど役にたつか計り知りません。これはただものを作ることだけにではなく、これらの体験を通して養われた、ものの“見方”“考え方”“扱い方”は、生活の中でのいろいろな面で、創造的に生かされていくものです。

△材料の変形と変質▽

新聞紙や包装紙など、紙を捨てる時にどうするでしょう。紙を広げたまま肩かごにおしこむというのは、よくよくの時で、大抵は、いくつかに折りたたんだり、ぐしゃぐしゃにまるめたりしてほうりこみますね。これは面としての拡がりのあるものを、面積を縮少したり、量という形に変えるということになります。

また、お手洗いにいく前に、紙を両手でもんで……という光景もよく見受けられます。紙をもむと、硬い紙質がやわらかくなり、柔軟になり、肌との接触が快よくなります。しかし、誰も、こんなことを考えての上ですることはなく、幼児の頃からの材料体験が、このような時に習性となってあらわれるのでしょうか……

冗談はさておいて、同じ紙でも、その取り扱い方によって、いろいろに変形をし、変質をし、新しい構造をもつなど様相をかえます。どのような取り扱いをすると、どうなるかということについて述べてみることにしましょう。

△紙材の加工技術▽

①やぶく(さく、ちぎる)

鋏や小刀など、用具を使わないで紙を分断する時などに使われます。用具を使って切った場合と違って、切断面がやわらかな感じを与えてくれます。しかし、正確な形や細かい作業ができません。おおまかで大胆な仕事に適します。幼児子どもにも、ものの細部にこだわらず、思ったことを端的に表現させることが大切です。大いに手、指を使って紙をさき、さいたものを貼り合わせるなり、組み合わせるなどして、表現意欲を充足してあげて下さい。

紙をさいてみると、さけやすい方向と、さけにくい方向とがあることがわかります。(こころみに塵紙などでたしかめて下さい) 或る子どもがこれを見つけて、紙は、畳の表のようなんだね”といっていました。つまり、紙の原料パルプが、一定の方向をむいてならんでいるわけです。(前回の「一般的な紙の性質」参照) 紙をさくということを通して、このような紙のひみつをも見つけ出すことができます。

②切る(断つ)

用具を使って、紙をいくつかに分断することです。さいた時と違って切断面が鋭くかたい感じがします。よく、紙で指を切るなどということがありますが、鋭い断面は鋭利な刃物にもなりかねません。

鋏で切る場合、幼児は先端でチョキチョキ切り、そのため断面が角ばったり、のこぎりの刃のようにギザギザになりがちです。鋏を充分に開いて、紙を深く入れ、刃一杯にはさむのがコツですが、子どもの年令や経験により異なります。曲線状に切るには、はさみながら鋏か紙を切る線に合わせて曲げます。

小刀やナイフ、カミソリの刃などで切る時には、机に傷がつかないように板を敷きます。物指しに当てて切る際には、物指しの目盛りのないほうか、肉の厚いほうに当てるようにします。刃物をあまり立てないで(紙と刃物との角度) 切るようにします。

同じ寸法に切る(直線状)には押し切り(裁断器)を使うと便利です。

③まるめる

紙をぐしゃぐしゃにまるめることです。まるめることによつて、拡がりをもった面状のものが量のあるものへと変化します。つまり、平面のものが空間性をもつ立体と変化するわけです。

す。

④折る（折りたたむ）

折ることによって、平面から立体へと立ちあがります。また、折った折り目に対して平行な力に丈夫さがでてきます。葉包を開いて葉をのむ際に、紙を折って葉を口にうつします。紙テープのように細かい紙でも、折ることによってピンと立たせることができます。屏風などは紙を折って立てた^①と同じ構造といえましょう。

薄紙は手で容易に折ったり、折りたたむことができますが、厚さが増すにつれて、ただ折ったのでは折り目がきちんとできません。

紙を折るには、いろいろな方法がありますが、折るか所に、粘土べらや果物ナイフ、鋏の背などで筋をつけ、その筋が内側になるように折るか、小刀、カミソリの刃などで紙の厚さの半分程度、軽く刻み目（あまり力を入れると切断してしまふ）を入れ、その部分が外側になるように折ると、きれいに折ることができます。

普通折るのは直線状ですが、前述の方法を使うと、曲線状に折ることができます。画用紙などを使ってたしかめてみて下さい。

⑤曲げる

折ると同様、曲げることによって平面が立体へと変化します。湾曲した軸方向の力には丈夫さが増します。更に曲げ、円筒形にすると一段と丈夫になります。煙筒やパイプなどはこの原理を用いています。少ない材料でより丈夫なものをという人が智がつくりだしたものです。

紙を曲げるには、丸い鉛筆や棒などにまきつけるのが普通ですが、物指しなどで紙をおさえ、他の端を指でつまんで、上方にひっぱりながら引くと、くるっときれいに曲がります。ボール紙のように厚い紙は、一度水にひたすか、霧吹きで水気を与え、半乾きの状態の時に曲げるようにします。

⑥ねじる（よる、より合わせる）

袋に物をつめた時、袋の口をねじって内容物が出ないようにすることがあります。これは、ねじって紙にくせをつけ、紙のまさつ抵抗によって口が開きにくくなるわけです。

また、塵紙や和紙をよって、こよりを作ることができます。よることによって丈夫さが増します。紙テープをよった紙ひもがあります。これは、クラフト紙という紙の中でも一段と丈夫な紙を、紙の繊維の縦方向にテープ状に細長く切り、更にそれをよって丈夫さを加えたものです。

⑦押す（押しつける、プレスする）

紙器の皿は、円形の紙を型にのせて上から押しつけたものです。画用紙なども、湿気を与えて紙質をやわらかくし、凸凹のあるものの表面にのせ、上からまるめたきれなどで押しつけると、凸凹の感じをそのまま画用紙の上に再現することができま

⑧組む

ホール紙などのカードをつなぎ合わせるのに、接着剤を使わないで、相方に切りこみを入れて、噛み合わせるようにしてつなぎ合わせることがあります。このようにして板状のものを組み立てていきます。切りこみの入れ方もいろいろな方法があります。

⑨織る

織物を織るように、テープ状またはひも状のものを織っていきます。色のとりあわせをくふうすると、美しい敷物などができます。ひも状のもの（線材）が織ることによってひろがりのある面状のものになります。

⑩あむ

毛糸であむように、紙ひもを使ってあみます。買物用の手さげ袋などがあります。

⑪はる（はり合わせる、はり重ねる）

紙と紙とを接合するために、はるという場合があります。はり合わせる場合には、大抵接着剤を使用します。接着剤には大和糊や姫糊のような澱粉質のものから、セルロースやコム質など樹脂系のものなどさまざまあります。接合する相方の材質、接合か所の状態、接合か所に加わる力や衝撃、接合に要する時間などに応じて、それぞれに適した接着剤を選ぶ必要があります。（詳細は次号で）

はりこの虎があります。軽くて非常に丈夫です。ちょっとぐらい押したり、叩いたりしても変形しません。これは、虎の型に幾枚も紙を張り合わせて型からぬき、乾燥させて作ったものだからです。このように張り合わせることで、丈夫さが増します。

⑫紙塑として

紙は普通平面材として取り扱われますが、紙塑（紙ねんど）は、紙を細かくちぎって水にひたし、さらに繊維のからみ合いをほぐし、粘土や石綿、その他のものを混入し、生麩など糊質のものを加えて練ったものです。空びんや空かんなどにくっつけ、乾燥してから着色すると、軽くて面白いものができます。

（新宿区立津久土小学校）

ケニヤに使用して(三)

—ケニヤの家庭生活—

南
信
子

一、貧しき

首都ナイロビの町はずれにあるアフリカ人街を歩いていると、ジャンボ（ハローの意）、ジャンボとどこからともなく子どもたちが集まってまいります。ナースリースクールにも小学校にもゆくことのできない子どもたちは、両親が働きに出ている間、長い一日を弟妹の世話をしながら、家のまわりでただ無為に過していることが多いようであります。

遊ぶための玩具もなく、ぼんやりと無表情に立っている子どもたちの姿を見かけることもしばしばです。真っ黒い顔に目がきらきら光り、まつげが長く、髪の毛は男女ともくるくる巻いていま



ケニヤのちびすけ——三才児——

す。あまり清潔でないボロボロの洋服をきてはだしている子どもたちも多いのでありますが、そば近くよって握手を求め話しかけてくる子どもたちは本当に可愛く、子どもたちの話すスワヒリ語ができたなら、楽しい美しい話をいっぱいきかせてやりたいとどんなに思ったかわかりません。

しかしナースリースクールや小学校にもゆくことのできない家庭の子どもたちが多いことを思うと本当に胸がいたみます。朝の食事も十分に与えられない子どもも多いといわれます。とうもろこしや豆類、芋類を常食としておりますが、一般に栄養の不足は免れないようであります。どこの家庭も子どもが多いということが特徴であり、それに伴う生活の苦しさが問題であります。

衛生観念も乏しく病気も多い上に医療施設は少なく診療所には朝早くから順番を待つてならぶ人たちも多いようでありますが、病気になるっても医師の診察を受けることもできない人も数少なくない状態であります。住宅も最近では政府や市が一般のためにアパートを建てあつせんのでありますが、イギリス人なみの文化設備のどのつた家庭生活にははるかに遠く、いまだに狭く電燈もない家にすむ人々も多いのであります。

しかし、こうした生活の貧しさの中にも、よく来客の接待をすることを習慣としており、私はナースリースクールの教師養成のために開いた講座に集つた婦人たちの家庭にお茶に招かれていっ

たこともしばしばでありました。何のてらいも、虚栄もなく誠実あふれたもてなしを彼らから受けた楽しい思い出は忘れることができせん。貧しくても他人に絶えず善意と好意を示すことのできる国民であることを思います。

二、家族の連帯感

また家族間の互助精神、連帯感にとんでいることにはたびたび目をみはる思いをいたしました。その例として次の二つの話を思い出します。

私の講座に集ってくる婦人たちの中には、主人と子ども数人をもっているという例も少なくなつたのでありますが、講座が一月続く場合にも寄宿舎に入り勉強に集中しておりました。留守中の家庭のことを案じてたずねますと、何のためらいもなく、主人や母あるいは長女が協力して留守を守り、子どもの世話をしていると答えるのであります。講座の間にしばしば妻を見舞い、家族の報告をする夫の姿もみられ、ほほえましい限りでありました。またこんな経験もいたしました。ある日のこと、イギリスの婦人とアフリカの学生たちと一緒に車にのりあわせたことがありますが、窓外にアフリカ人の親子が父親は手ぶらで、母親が赤ん坊をおい、子どもたちが荷物を持って歩いてゆくのを見かけました。

その時イギリスの婦人がアフリカの学生にむかって、手ぶらで歩く父親の態度を批判し、あなた方の国は女と子どもの地位が低い点が問題であると指摘いたしましたとき、アフリカの学生はそのイギリスの婦人にむかって「先生はアフリカ人の家庭をよくご存じでないと思います。あの親子は農家の家庭で、父親は一日中畑で重労働をし、今帰途につくところです。子どもたちはみな少しでも疲れている父親を助けたいと思っています」と答えました。

私はアフリカの家族の間にある互助精神に多くの学ぶべきことがあるように思われるのです。

三、家庭のしつけ

両親の子どもたちに対するしつけは非常にきびしく、イギリス人のしつけ方の影響を受けている点も多いように見うけられます。とにかくアフリカ人の気質から考えても、決して日本人のように甘やかして育てたり、子どもが過保護におちいる心配はない国民のようであります。一般の両親には育児の知識はあまりないようであります。親としての権威と確信をもっており、教えるべきことを徹底的に教えますし、子どもたちの両親に対する従順さもごく自然にみえます。子どもたちは成人するまでには男女ともに家庭で両親の仕事を見習い、両親を助け弟妹の世話をするよ

うに訓練をうけております。その結果、長ずれば他家に女中や子守、下男として、また料理や庭の手入れをするために雇われ家計を助けることにも役立つようになります。私は私のナーリースクールで教えた実習生たちが子どもたちの哺乳、給食、排泄などの世話を非常に手ぎわよくするのに驚かされましたが、家庭で両親を見習い弟妹の世話をよくする習慣が身につけている結果であると思います。家庭の外に楽しみや刺激が多く、両親も多忙で子どもたちが家庭で両親の手伝いをしたり両親から見習うことが少なくなりつつある日本の今日の家庭生活を思い考えさせられます。

四、家庭婦人の社会進出

生活の貧困さは家庭の婦人を社会へ押し出す一つの原因をつくっているようであります。乳幼児をもつ母親も生活のためにさまざまな職業についておりますが、それと同時に、最近の若い婦人は家庭にとじこもらず社会で社会人としての役割を果たすことにも意味を感じているようであります。家庭に女中を雇い、学校の教師をしたり、社会福祉や児童福祉の仕事にたずさわったりする婦人も少くありません。女代議士として活躍する先覚的婦人もあります。私の関係いたしましたコミュニティセンターや、ナイロビ市の幼児教育施設の監督の助手をしていたのはほとんど家庭婦人

でありました。イギリス、アメリカなどで留学して帰国し、社会に活躍する家庭婦人も少くありません。

また地方には地域の発展のために無報酬で自発的に文盲の婦人たちや子どもたちの教育にあたっている婦人もあり、ナースリースクールなども家庭の婦人たちが協力して交代で先生として働いている例も多く見かけました。最近では婦人会の自治活動も非常に盛んで、家庭生活の改善、家族計画、結婚問題、婦人の社会的責任などについても、自発的に問題点を見出しその解決にあたっているようでもあります。たんに集会をひらいて意見を述べるだけでなく、すべて

を実際の活動にうつそうとしてい
る点などにも学ぶべき
ものがあり
ます。とに
かく、婦人
が社会へ進
出してその
役割を果そ

婦人会のリーダー 議事をする会長と副会長



うとする意欲と態度には、尊敬の念を禁じえません。自分の家族の幸福や一家の繁栄のためには多くの財力や労力を傾けても、社会に連帯責任を感じる家庭の少ない世間一般の現状について反省させられる心持がいたします。ケニヤの将来は婦人の地位が向上するだけでなく、その社会に果す役割も大きいことを期待してやまないのですが、特に子ども問題を忘れずに活躍してほしいものだと思います。

(北陸学院短期大学)



ともに働いたアフリカ人の指導者及びイギリス人の市のナースリースクールのスーパーヴァイザー
—— 中央筆者 ——

幼児期における 言語障害児の導き方

田口恒夫

といえ、それが自分と他人の間柄を保つために、つまり適応の道具として、使われる重要な道具だからである。

しかし、ことが言語障害の問題となると、多くの人々は全く他人事のように無関心でありがちである。ひとつの理由は、言語障害者が全体の5%に充たず、九五%以上の人々は普通の状態において、普通に話すことに何ら苦労してはいないからである。

ところで、私もが現在無意識に行なっているこの「日本語を話す」ということが、実際は非常にむずかしいことであって、たとえば「お茶の水女子大学」などという発音を、私もが笨々とやっているとこのことは、たとえば外国人などにとっては驚異的なののである。人間の行動には呼吸などのように無意識のものが少なくないが、ことばもそうである。そのことばがうまく話せないという状態は、普通の人にはなかなか理解しにくいことであるが、不自由な語学力で外国生活してみると、その困難さがよくわかるものである。外国生活をしているのと同じ困難さを、わが国に生活しながら感じている人が少なからず存在するのだと考えてみるとよいかもしれない。

話しことばの問題は、最近よく話題にされるようになってきた。幼稚園教育要領での扱われ方をみても、小学校における「話し方」「聞き方」の学習指導にも、戦後社会で話しことばの比重が大になつてきている傾向が、はっきりと現われている。成人のための「話し方教室」の繁盛もその例といえよう。「話す」ことが、なぜ重要か

ことばの問題の中で「読むこと」「書くこと」は小学校以上の教育にゆだねられているが、その基礎となる話しことばが完成されていないと学校教育にも支障をきたす。わが国では話しことばの研究はまだ余り発達していないが、外国ではスピーチサイエンスという分野が確立されており、少なくとも次のことがらは基本的事実として確認されている。

①話しことばは、生まれつき身につけているものではない。人に教えられ、習っておぼえることによって身につくものである。狼少年や、耳の聞こえない者が啞になるという事実はこの例である。これらは、学習に必要な条件を剥脱しておいて、学習効果が皆無であることを証明したことになる。

②話しことばは無意識にしゃべるものである。しゃべる動作ほど、連続的で、速くて、しかも正確なものはない。極めて高度の運動機能であるにもかかわらず、本人はこれを知らぬ間に行なっている。意識して、計画的に順番通りやれといわれると、かえってやれなくなってしまう性質がある。無意識に行なわれるのが自然な状態なのである。

③ことばを話すための専用の器官が人間には一つもない。舌も食物を飲みこむためのものであり、唇も食物の入口を閉じるための器官である。つまり、各々に独自の生命保持の機能を持っている器官を借りてことばを話しているのであって、その証拠には、生命保持の必要上に呼吸や食物をとることが必要な場合には、ことばを話す余裕がなくなってしまう。

④話しことばは社会生活上欠くべからざる道具である。例えば、言語障害者の収入は平均一〇%低いというようなことがいわれるが、話しことばのハンディキャップは、社会生活上のハンディキャップを生む。

以上序論として、話しことばの性格について大要を説明してみた。次に言語障害の問題を考えてみよう。

◆幼児期における言語障害の問題

ことばが年令なみにうまく話せない子どもは全て言語障害とよばれるのであるが、その原因は実に多様である。そこで現象的にとらえて、次の三つを考えてみることにしよう。

すなわち、①ことばの発達がおくれている。②一般的にはよく話すがある種の発音が正しくできない。③どもり

まず最初の二つを考えてみよう。ことばの発達がおくれているということは、ことばの学習がおくれた状態、または、順調でないはずんだ発達をしている状態ということである。その中で発音の面にとくにひずみのある場合が、先に挙げた②のタイプである。

ことばの学習は、誕生と同時に始まる。六、七才頃までの間に、非常に勢いで行なわれるものである。従って、子どもの言語障害は、全てこの時期に発生する。

言語障害の子どもに対しては、正常を欠く原因をまず確かめなければ、障害に対する判断ができないわけであるが、よく知られ確認されているものとしては、次のものがあげられる。

①知能がひどくおくれている場合。知能のおくれがあれば、学習が障害される。言語学習は先にも言ったように激しい学習であるから、知能のおくれは当然ことばのおくれをひき起こす。しかし、知能のおくれが言語のおくれとどう結びつくかということは正確にはわかっていない。わずかに、統計的に、知能のおくれがひどい人ほどことばのおくれの程度がひどいということがわかっているだけで

ある。知能のおくれに比してより以上にことばがおくれる場合は、知能だけでは説明できない。

② 耳の聞こえが悪い場合。

③ 運動まひのある場合。話すために使う器官の運動がうまくいかない場合は、当然、話すこともうまくいかない。精薄児には、この点で異常をもった子どもが多く、食事がうまくできない子どもが非常に多い。

右に挙げたことがらは、その子どもの側の問題である。子どもの言語障害を訴えられると、その子どもだけを問題にし、調べようとしがちであるが、ことばの学習指導した人の側をもっと問題にすべきである。私も自身の外国語学習の場合を考えてみても、問題は教師や教え方にある場合が多いのである。子ども以外の条件を考えてみる必要がある。それは、環境的な条件である。

④ 環境的な条件。これに関して研究が殆んど進んでいない。教え方がまずいと子どもの言語学習はうまくいかないわけであるが、普通の母親は学習指導法などよく知らないままに、じっさいには大部分の場合すばらしい方法でことばを教えている。これを分析してみると、次のような要素が浮かび上ってくる。

イ、母親は、赤ちゃんによく話しかける。赤ちゃんにとって最初は、ことばは単なる雑音として受けとられる。全く日本語を理解せず、耳もよく聞こえない赤ちゃんに、母親は絶え間なく話しかける。そして、八か月近くになってようやくその日本語の一部を理解し始めたらしいが現われるのである。一体、どのくらいことばを聞かせ

たら理解できるようになるかということについての研究はまだほとんどないが、とにかく母親は、毎日、うますたゆまず、ことばの刺激を入れてやっているのである。これが最も大切な条件である。

ロ、赤ちゃんが声を出すと、それに対して母親は必ず反応し、それをあげましてやる。しかも、それが殆んど快の反応である。

赤ちゃんは普通、声を出すことを強制されはしないし、何を言っても叱られない。更に、母親は、子どもが幼いほど真正面の近い距離からきわめて印象的に話しかける。距離が近ければ声が距離の割に大きく聞こえるものであるが、母親はボリュームを落とさず、大きな声のまま話している。従って、子どもの耳には、大きな声が常に聞こえている。しかも、母親と子どもの関係は一对一であるし、子どもは母親を信頼して受けいれる関係にある。

以上のような教育、つまり普通の母親が普通にやっているようなこと以外に、ことばを話させるよりよい教育方法はない。語学教師のやっている方法が成功しないのと考え合わせるとよいであろう。これらの条件に欠けていた場合、ことばの発達はおくれ、障害が起りやすいわけである。

次に、自閉症・緘黙症（緘黙）などのような情緒的な問題や、小児分裂病、更に、失語症などの原因でことばの障害が現われることもある。

要するに、子どもが発音をおぼえるという状態では最初の数年、とくに最初の一・二年間が最も大切なのであるが、子どもの頭の中でのどのような学習が行なわれているのかについては、まだくわしく

わかっていない。その学習の結果として外に現われ出てきたもの、つまり、語い数とか、品詞の発達とかの研究だけが、わずかになされている状態である。

発音は、マ・バ・パ・ワなどの唇音とよばれるものが比較的早く、カ行の音は平均して満二才、サ行の音などはずっとおとされて、平均四・五才などというように、音によって発達段階があつて、米國などではこれの研究が殆んど完成されている。例えば、サ行（Sに母音のつく音）などは女児では半数が六才で完全になり、男児は更におくれるということが明確化されている。わが國では、まだこれからである。

幼稚園年令の子どもは、ちょうど発達の途上にあるので、そのまま放つておいてもよい場合もあるが、逆の場合、つまり、この時期に放つておくと一生、自然には直らない場合もある。最近では診断法が発達していて、二・三才児からそのような診断や予後の判断が可能であり、放つておいてもよいものか否かの診断ができるようになってきている。

◆発音異常児の扱い

ここで、発音異常児に関する学令に到達するまでの扱いを考えておこう。

①まず、ことばの学習を困難にしている要因はなにか、そのなかで治療困難な学習障害の有無を確かめ、医学的治療や心理学的治療によって除去するものはないかどうか、を検討する。

②発音のできない音の種類を検討する。音の発達順序に従つて調べていくと、ある順位以降の音が全て発音できない場合と、ある特定の音をとびこえて他の音は発音できている場合とが見い出される。

前者は、何かの原因で、ある段階で発音の発達が足ぶみしてゐるのであつて、条件さえよければ、これから徐々に発達していくであろうというみかたも出来る。しかし厄介なのは後者である。これは、ある段階で、ある音を学習する際に誤つた学習が行なわれてしまい、それが固定してしまつてゐるのであつて、放置するとひとりでは直らないおそれがある。

発音障害の原因で最も多いのは、その音の学習期に「あつた」なんらかの異常であるが、現在のその子どもの状態からでは、すでにそれがわからない場合が多い。たとえば、満二才前後に学習するはずのカ行の音の異常が、その学習期に数週間にわたつて風邪を引いてしまい、「カ」の発音ができにくかつたため、それに似た音の発音のしかたをおぼえてしまい、それが固着してしまつた結果であるというような場合がある。これなどは成長後の子どもの状態からはわかりようがないわけである。

発音学習期の異常としては、次のようなものが考えられる。

①その時期に、口内炎・がこうそうなどがあつて、口の中にその音の発音動作をする痛みがあつた場合。または口蓋などの一時的な麻痺があつた場合。

②学習指導者、主として母親やきょうだいの発音が異常だつた場合。

②その当時、耳の聞こえが悪かった場合。などであるが、その当時の異常が、現在までひき続いている場合にだけ原因がはっきりするのであって、現在では不明の場合が多いのは当然といえよう。

発音障害をもつ子どもの中で目立った特徴をもっているもののひとつが口蓋裂の子どもであるので、口蓋裂について述べてみよう。

(1)口蓋裂について

口蓋裂児は一〇〇〇人に一人の割合で誕生している。これが外側に現われて唇が割れている場合を兔唇とよぶ。これは胎生四週間目から七週間目に形成される組織の接合がうまくいかなかったために起こるものである。

口蓋裂、特に兔唇を伴った子どもが生まれると母親はそのショックから母乳の分泌が悪くなり、乳児の方も吸う力が弱くなるために哺乳困難となり、発音障害を起こしやすく、弱く病気がちな子どもになりやすい。病気の子どもは全般的に発達がおくれがちであるし、あやされる機会に乏しく、ことばの刺激も受けにくいというような悪循環が生じる場合が多い。しかも、そのままであると、ことばの学習期に口と鼻がつながった状態のままであるため、異常な発音のしかたを学習してしまうのである。口蓋裂のために、普通の発音をしているのにいきが鼻にぬけておかしくなるのではない。その子どもは乳幼児期に口蓋裂という状態のままで発音の学習をしなければならなかったために、異常な発音を学習してしまうのである。従って、六才頃手術をして口蓋裂を直しても、発音は依然としてよくなるらない。それは、学習した音が固着してしまっているからで、

医学的な構造の改変だけでは、ことばのほうはどうにもならないのである。

現状では、六才くらいで手術する人が多いが、生後すぐに発見し、満一年以内で手術することが望ましい。満一年以内に手術してしまえば、それ以後、発音の学習期を正常な口蓋を使ってすごすことができるからである。そうすれば六〇%以上の子どもが、ひとりで正常な発音を学習して、できるようになることができる。

六才頃に手術した場合は、発音のやり方の再学習が必要である。再学習が正しく行なわれれば、だいたい一年から三年くらいで正常になる。そのためには、言語治療教室がもっと普及する必要がある。幼稚園年令児に対しても、予防指導が行なわれることが望ましい。精薄児のための特別保育と同じく、言語障害児にも特別なカリキュラムが組まれ、適切な指導が行なわれる必要がある。

口蓋裂の子どもに対する対策としては、まず生後できるだけ早く発見し、早く手術をして、条件を整えてから学習させること、及び、学習後に手術したら、再学習をきちんと行なうことがたいせつである。

(2)難聴児について

難聴児には発音異常が多い。人間の耳は、ピアノのキイの一番低い音よりさらに低い音(約二〇サイクル)から、一番高い音より以上に高い音(約二〇〇〇サイクル)までを聞くことができる。ところで、聴力障害者というのは、必ずしも全部の音がボーンと聞こえにくくなるのではなく、ある音は比較的よく聞こえるのにある音

はいくら大きくとも全然聞こえない、というような場合もある。人間の話すことばは、大体においてピアノのキイの真中の音より高い音でできており、特にマサツ音などの子音は主としてピアノの一番右の音よりさらに右よりの高さの音でできている。これが聞こえないければ話されることばが全然つかめないことになるし、厄介なこと自分に自身もその聴力異常に気づかないことが多い。

難聴児は、話されることばが不明でわからないままに、態度その他で適当に反応し行動している。従って他人も気づきにくいものである。例えば、大人が「○○ちゃん、ここで待ってね」とやさしく言うとする。子どもは、大人がにっこり笑うので、にっこり笑って反応する。大人は理解したものと思つて、子どもをその場においておくが、子供はあきてよそへ行つてしまふ。この場合、「この子はちっとも約束を守らない」と大人が叱りつけるとすれば、その子にとつて、さっきまでにこにこしていた大人が急にしかりつけるといふわけで、大人に対する不信の念を生じさせるもとなりやすいのである。聴力障害児が性格異常や行動異常を起こしやすいのは当然であろう。

難聴を早く発見すること、これが何よりも大切である。そして、難聴児にふさわしい教育をすることである。つまり五〇〜六〇センチベル前後の聴力の者を六才まで放つておくと、ろう学校へ入れる以外に途がなくなるし、ろう啞者としてしか生活し得なくなる。ところがその同じ子どもを、満三か月〜六か月、おそくとも九か月までに発見し、聴力の不足分を性能のよい補聴器で補い、定期的に専門

家が指導を行なえば、いまでは補聴器をつけた正常人として生活できるようになる可能性があるのである。

英国では、難聴児対策が充実していて、九か月までに発見し、公費で補聴器を与え、パートで専門家を家庭に派遣し、適切な指導を行なうような制度がここ一〇年以來実施されている。これによつて、難聴児の可能性がぐつと拡がっているのである。

六才以後の発見ではおそく、ろう学校でいかに熱心な教育を施しても、なかなか正常な日本語をしゃべることは期待し得ない。わが国でも、早急に難聴児の早期発見、早期教育対策をこうじるべきである。

(3) どもりについて

幼稚園で数多く発見される言語障害のひとつにどもりがある。

どもりの原因は、はっきりせず、原因と言われているものにも確証のないものが多い。例えば、遺伝説もどもりの子どもの家系調査をするとどもりの人が多く出てくるが、これは味噌汁の好きな人の家系の子どもは味噌汁が好きな場合が多いけれども、味噌汁好きが遺伝したとは言い得ないように、遺伝とは言い切れないものがある。

模倣説も不確かである。どもりの発生は八割以上が三才前後であるが、成人後のインタビューでは、本人が三才頃の状態を記憶せず、小学校四年以降の模倣をあげる場合が多く、至つてあいまいである。

原因に関しては不確かことが多いが、はっきりしているのは次のいくつかの事柄である。

①どもりの発生は三才前後が多い。

②女兒よりも男児に多い。

③人種・国籍を問わず、およそ一〇〇人に一人の割合にいる。

④気にすればするほどひどくなる。

以上は、はっきりしていることであるが、どもりに関する他の意見は、全てまだ不確かの出ないものである。

ノイローゼ説・左きき説も同様である。左きき説も以前には宣伝されたが、その神経学的には根拠が薄いし、研究方法が精密化するにつれてはつきりしなくなってきた。ただ、左ききの矯正をしようとする親が、食事とか字を書くとかいう特定の場合だけを問題にしがちであるし、無意識に自然に子どもが行なっている動作について口やかましく注意することになるので、それが子どもを欲求不満状態に追いこみやすく、それがひいては、どもりを発生しやすくなるのではないかと考えられている。

男児に多いのは、社会的な役割の与えられ方に原因があり、男児の方が女兒よりも行動の許容範囲がせまいため、不安定と緊張を紹くのではないかとわれている。つまり、男児は、幼時から男らしく行動することを要求されて、女々しい弱々しい行動を許されないが、かといつて過度の攻撃性はやはり禁止される。女兒は、女々しく弱々しい方は比較的境界なしに認められ、攻撃的・積極的な活動面の自由さは男児と余り変わらない。その意味で男児の活動の許容範囲は女兒よりはるかにせまいわけである。しかしこの研究も、かんじんの「それならばなぜ男児がそういう条件下で、爪噛みや夜尿症

でなく、どもりを起こしたのか」という原因を明らかにしてはいない。これに反してどもり発生の条件や推移・経過は、徐々に判明してきている。

米国の研究では、どもりの発生しやすい三才前後の子どもに關して、次のようなことがいわれている。即ち三才前後の子どもは、一般的によくどもるものである。その中の一部の子どもが、そのままどもりの状態を続けるのである。それを子ども自身は殆んど気にせず、不適応は少ないのであるが、この時期にどもってうまくしゃべれない経験を重ねているうちに、大人が心配して、それを直そうとし、かえってことばそのものを意識させ、子どもを緊張させ、ますますどもらせるといふ悪循環が生じやすいためである。そして、小学校三年くらいまでそれをくり返したあげく、ついに子ども自身の中にどもりを恐れ、固くなりなるとかそれから逃れたいという気持ちが生じ、そのためにかえってそのトリコになってしまうという時が来るのである。

扱ひ方としては、先ず、あせらず、成長と成熟によって正常になることを期待して、待つてやることである。子どもがどもりながら何かを伝えようとしている時は、そのしゃべり方を問題とせずその内容を聞いてやり、内容に対する反応をきちんとすることが大切である。どもること自体よりも、恐しいのはむしろどもることに對する周囲の反応である。両親がその点をよく理解し、決してどもることを気にせず、その子どもを普通に扱ってやるのが大切なのである。

(お茶の水女子大学)

ガンバリの力を育てる

遊びと素材



(その三 空カン)

清水エミ子

〈義彦君の空カンあそび〉

子どもたちのガンバル力があの小さな体の中のどこにひそんでいるのだろうか、としみじみひとりひとりの子どもをみなおしてしまつたほどビー玉と糸まきの素材でのあそびは、つきることなく子どもたちをガンバラせ、くりかえさせてくれたのだ。

ビー玉と糸まき、この二種類の素材は全く質のちがう素材である。この質のちがいが子どもたちのガンバル力をいろいろと変え、引き出してくれることを体験したのである。素材の持っているそれぞれの性質がいろいろの型で子どもたちを上げきし、誘発してくれる。そして子どもたちの体の中のいろいろの力をたしかめさせてくれるのだ。そこで今度はどんな家庭にもある、どんな子も手でふれ、目で見たことのある空カンを子どもたちに与えてみることにし

たのである。

空カン集め

ビー玉や糸まきと同じように子どもたちの知らない間に保育室に環境としておいておくことをねらい、四月から卒園児の保護者になのみ空カンをためてもって来てもらい、切り口をつぶし学級全体でゆっくり遊べるだけの数になるまでたくわえておいた。そして大小種々の空カンが七〇個になった時、子どもたちの前にダンボールに入れて出したのである。

はじめの反応

どの子もすぐ空カンの所に集って来たが、何となくながめている子、指先でさわってみる子、つまみ上げてながめ「これたべたよ。

これすぎだよ」とか「アッ、サクランボのカンズメだ」などと言いながら机の上にならべだす子がポツポツといった程度の反応で、ピ―玉や糸まきのように無条件でだれもが飛びついていくという反応はみられなく、何となく取りつきにくかったようだが、これも時間の問題だった。

遊びはじめ

●レットルをながめる。

フラックと空カンの前に立ちどまって空カンを持ち上げ、ひとつひとつレットルをながめて、くびをすくめたり、なでたりして、またもとにもどしてその場をはなれていく子。

好きなもの順にならべ、だれも空カンのまわりにはないのをみきわめ、そっと近より、レットルをひとつひとつながめ、種類のちがうものを机の上にえらび出し、いろいろ順番を入れかえながらならべていく。

「これはモモか、これはミカンの次だな」など言いながら自分の好きなものの順にならべているのである。こんなあそびを好む子どもたちは内気な男女児たちで、何となく集って来てはくり返し遊んでいったようである。

こんな単純なくり返しが内気で静かな遊びを好む子どもたちに適していることをもう一度あらためて認識させられた。

空カンだけの遊び

●空カンの階段

好きな順にならべる遊びを自分でやったり友だちのをききながらならべてくらべ合ったりしていた義彦が、「あれ、あんたのミカンのカンはばくのミカンのカンより小さいね。それからモモのカンズメも、こういうのと、こういうのがあって、大きいのが小さいのがあるね」と新しい発見におどろき、同種類の空カンをまとめて机の上においたのだ。その時いっしょにカンをいじっていた英俊が「ほらみてごらんカンの階段ができてるじゃない。義彦くん」と義彦の肩をたたいて大発見をしたようによろこんでいる。これに気付いた義彦は同種類のカンで階段を作る。カンの大小を組合わせて階段を作るなどをやりはじめたが、カンの大きさの種類は四種類位のためみじかい階段しか作ることができなかった。義彦は「ちがう大きいのカンないかな」とタンボールの中をかきまわしたが思うようなのは出てこない。しばらくおでこをなでまわしながら思索していたが「そうだ、いいことがある」と顔をほころばせ、手を打ってから「ほらこうやって小さいのと大きいのと、いろんなふうにかさねれば長いのが高いのの階段ができるよ」と夢中で空カンをかさねていくのだった。このいきおいに近くにいた春美も、はねかえされたように「ほんとだ。あたしも作ろう」と今まであまり交わることのなかった同士が「このふとこのだめだ。あんたの方にこのふとこのあ

る。ちょうだい」といったぐあいだ、だれよりも仲良しのようになぞぶことができた。そしておとなには思いもよらない高さ、長さの階段が作られたのである。このあそびで義彦と春美のふたりは、

・いろいろの大きさのちがいを知った。(高さ、ふとさ)

・いろいろの大きさの組合せでいろいろな高さができる。

・同じふとさの円筒形をかさねていく時のむずかしさと、しんちようさ。

・重ね積みをしていく時の安定の取り方などを遊びながら身につけていったのである。この二人はあまり口数多く話し合わなかったが「あれっ、下の方がふとくつても上の方が長すぎるとひっくりかえっちゃうよ」などとひとりごとしながらいろいろと組合せてはくずれ、重ねてはやりなおし、くりかえし遊んでいた。

●空カンの上を歩く

二組の階段をとりあわせて作った義彦は、ひとりてくびをすくめ、にっこり笑ってから上ぐつをぬいで空カンの上をよつばいになってあるき出し、段々をのぼりはじめたのだ。が、手は上手にカンの上をのぼっていきが足は積んだカンをすぐにくずしてしまう。二、三回足でくずした階段をなおして、やりなおしをしていたが思うようにのぼれない。そばでみていた正光が「よっちゃんカンがくつついてるからよ」と言う。それをきいて義彦は「そうか、そんならこつやろう」と階段をくずし、ただ二列にならべその上をよつばいになってわたってあるいた。「家はこういうげいとうやるよ」と義彦は両

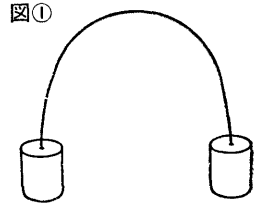
手にカンをにぎっては次々にわたり歩き「家のきょくげい」と室の中をあつちへならべ、こつちへならべしてあるいたのだ。次の日義彦は登園するとすぐ画用紙に象や馬の絵を描きはじめた。そして「これお面にするんだよ」と夢中で切り抜き、お面にしそれを机の上におくと、同じ大きさの空カンを二個両手にぎって持って来た。

まず象のお面をかぶり室の中をのっそりのっそりカンを両手ににぎり、おしりをもち上げて歩きまわり、ひとめぐりして馬のお面と交代する。この遊びをやりながら義彦は「こは動物の幼稚園ね」と近くにいる女の子によびかけ「ほんものみたいな音でしょう。カンの音」などと言ってよろこびを現わし、「カンズメってずい分いいな。たべるでしょ。それから遊ぶの」と言って大声で笑うのだ。

●カンの下駄

次の朝義彦は私のそばにやって来て言いくそうにもじもじしている。「なあに」と声をかけると「先生、カンに穴あけていい」「ええ手を切らないようにね」「だいじょうぶくぎであけるんだもの」と言いながらくぎと金づちの戸棚に向かっていた。

しばらくすると「先生、じょうぶなひも、ちょうだい」と義彦が空カンを手に持ってやって来た。私からひもを受け取るとすぐその場でカンの穴にひもを通した。しかし、どうやって一つの穴に通したひもを止めてよいかこまってしまう、カンのその穴からひもを出しぐるっと外にまわしてゆわえたり、カンのまわりをぐるっと一回巻いて穴に通したりしている。おとなには考えも及ばない、ややく



しい結び方をしたり、通したりしたのだ。そして「おかしいな、お父ちゃんきのう、カンの下駄っておもしろいよ。お父ちゃんも子どもの時したっていったけど、穴を一こあけてひもを通すんだっていったけど一個の穴じゃぬけちゃうよ」とくびをかしげてこまっている。

そこで私が割箸をゆわえつけてぬけないようにしてあげる(図①)と、かんしんしたように私の顔を見上げていた。そして、カンの上にハダシであがり指の間にひもをはさみ、ひもの上の方を持ってカンで歩くのだ。ひもを上手にあやつり、足もそれに調和させてもちあげないとひっくり返ってしまう。(竹馬と同じ)「カンの下駄いいでしょう」と義彦はのっかっては歩き、落ちては乗りして保育室をしんげんにカンの下駄で歩き回った。

この遊びは三、四人がまねて作り出したが、他の者はでき上ったカン下駄を交代ではいて遊んでいた。「カップポ、カップポいうね、おもしろい音だ」「馬みたいだね」と友達と義彦は降園のしたくの後までもカン下駄をはいて歩いていった。

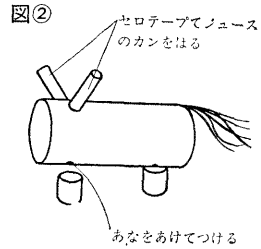
義彦は昨日父親に空カンで遊んだ話をし、父親からカン下駄をおそわって来た。義彦は父親の子どもの時代を思い浮かべながらカン下駄をはいたにちがいない。くす屋さんにわたしてつぶされてしまうような空カンが父親と子どもとの交わりをふかめ、関係も良くしてくれたのだと思うと私は空カンが入っているタンホールに近寄り空

カンをながめ、そのひとつひとつにひそんでいる力を思ってみた。こんな時、義彦が「先生、カン下駄家にもっていったよ」と言ってきたので我にかえった。お父さんに見せていっしょにはいてみたいのだ。そして明日また持って来ることを約束して持ち帰ることをゆるした。

●動物作り

義彦はかかえ切れないほどの大小の空カンを胸の所にかかえ、机の上に置くと大声で「これとらないでね。僕何か作るんだから」とどなつてからセロテープを取りにいった。それから二〇分後私は室に入ってみて驚いた。大小の空カンを組合せていろいろな動物が作ってあったからだ。

大きな坩ボンドのカンを胴に坩ボンドのを顔にうすべったいサバヤサンマのカンを足にした兎や、足を長くかさねたり、くびを長くした馬だのが四、五匹作られていた。そしてその動物に適したレットルのはつてあるカンをつかっていたのだ。義彦は象の鼻を作ろうとカンをセロテープでつなげて胴につけるが、重くてはがれたり、ひっくりかえったりするので象をあきらめ、犬や馬や兎を作り、机の上を動かしながら遊んでいた。この遊びは四、五名が入れかわり立ちかわり手を出したり、まねて作ったりしたが義彦とあと四、五名のほかは長つづきしなかった。私が見ているのに気付いた義彦は「先生、カンはずくセロテープはかけられちゃうね。ずく力入れてはらな」とためたよ」と苦心のほどを知らせてくれたのだ。この話をそば



できいていた正光は「そうか、そんならぼくも、もっと力入れてはればよかったんだ」とあらためて気づき、くやしそうにしていた。そして正光が義彦に「象の鼻絵をかく紙（画用紙）でつくって、つけてば。それからさ、足だつてくぎで穴あけてひもでゆわけばいいよ。きみ先生

にきいてみな」と提案した。そして義彦が私に穴をあけてもよいか聞きに來たので、三つ、四つなら良いと答えると、よろこんで正光はかんたんだが、よこはらにあげる穴はむずかしく、思うようにいかなかつた。そして義彦はカンのそこも切りぬき、カンのつつが作りたいから切ってくれと言つて來た。三個だけ切り取るとそれを胴にして足をゆわえていたのだ。「正光くん、ほらほんものみたいに足がブラブラするようになったよねえー」「すごい、やっとな成功したよ、ずい分たいへんだつたよねえー」とうれしそうだ。(図②)

●カン作り

庭からかけこんで來た女兒が床にころがっていた三、四個のカンにつまずいた。カンがガランゴロンと音を立ててころがった。つまずいた女兒はもとより室にいた一〇名近くの子どもたちがいっせいに音のする方にふり向いた。「すごいなあー」「どうしたの」「いけな

ながら「いろんな音がまぎつたね。やっちゃんもきこえたでしょう」と言いながら床にころがっているカンをひろいあげた。「これとこれはおんなじ音かな。大きいのと小さいのじゃちがう音だな」と珍ボンドのカンをそつとつけてみた、「こんな音はなかったみたい」と考えこむと近くでみていた清が「義ちゃんカンとカンがぶつかったり、とびはねたりしたからじゃない」と言いながら床にカンをおきカンをかけてぶつけてみた。カランコロンと音がしたのだ。

「ほんとだ、清ちゃんよくわかつたね。いろんなカンからいろんな音がでるんだね」と言いながらダンボールからカンを出してはけり、出してはけりがはじまつた。これは室にいた男女兒の大半がキヤーキヤーいいながらけり合ひぶつつけ合つた。義彦はけつたりぶつたりしながら、「ちがうカンにぶつける時のカンの音はへんな音で「カスン」というよ。一個のカンが下の木（床）をびよんびよんはねた時の音はおんがくみたいだし、うたみたいだ」
○いろんなひとといっしょに、いちにのさんでけると、がくたいの時みたいいろいろな音がする。

○つよくけとばすとへんな音がするし、へっこんじゃう。などをくりかえしてためしているうちに発見したのだ。そして友だちに「そつとけとばしなね」などと教えている。

こんな遊びを二〇分もつづけた義彦の所に康弘がやつて來て「よっちゃんカンけり鬼やろうぜ」ときそつたのだ。康弘は近くにいた男女兒をかき集めゲームの説明をはじめた。「シャンケンでまけた

人が鬼で、鬼はじん地にカンをおいてそのカンをけるの。そして「カンケッタ」って言うのね。にげる人は鬼がける時いそいでにげて、けったっていった時止まるの。鬼はじん地から手をのばしてつかまえるの。つかまった人が今度は鬼になるの」と言うのだ。

このゲームは皆がよろこんで参加し、一週間位毎日くり返された。

○「けった」と言っても遠くに逃げていってしまいう子を皆で「ほんそくここだったよ」とたしなめたり

○「じんちに足の先を入れて地面に手を付いてつかまえなよ」などちえの交換がみられたのだ。

○けろうと思っただけ言うとかまるよ。

○ゆっくりけってから言うとかみんなとおくまでにげちゃうね。

この遊びもやっつてはためし、ためしてはやるというくり返しの効果がみられたのだ。

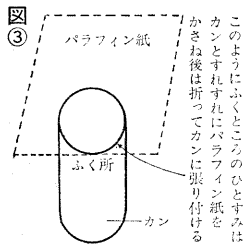
●カンのふえ

義彦はこの日登園の途中でハンカチを買ってもらった。室に入ってきて来るとハンカチの入っていたビニールの袋に息を入れてふくらましたり、つぶしたりしていた。が勝明が空カンを積んで遊んでいるのを見つけて近よった。そして、そばにあったうすいカンをひろい上げ持っていたビニールの袋をかぶせた。そしてフーツとイキをふき込んだり出したりしていた。何回かくり返しているうちに吹き方によってフーツと音を立てる時がある。「アツなつたぞ」と義彦は

音を出すのに一生懸命になった。

そこで私はパラフィン紙をそっとわたしてみたのだ。義彦はふしぎそうに受け取って私の顔をのぞきこんでいた。が私はやり方の指示はせずにその場をはなれた。そして義彦がビニールの代りに空カンにパラフィン紙を張ることをみつけてくれることを心に祈ったのだ。「がんばれよちゃん。くり返してやってごらん」と声がかけたかった。しばらくホカンとしていた義彦もやっと気づき、ビニールの袋をはずしパラフィン紙をかぶせて吹いてみた。フーツと少しなるとすぐならなくなる。近よって来た裕一が「義ちゃんビンとしないどめよ」と教えた。そして裕一は手でパラフィン紙をのばしておさえ「吹いてみな」と言った。義彦が吹くとビープとたいへんひびいた。口をはなすのも忘れ義彦が「なつたね」と言う。「なつたね」と言葉がひびけたのだ。ふたりは顔を見合せうれしそうに笑った。

裕一もパラフィン紙をもらいに来た。ふたりはおさえ合せてパラフィン紙をカンにビンと張りセロテープでしっかりとおさええた。そしてビープ、ビープと吹いた。これを見た他の子どももパラフィン紙をもらいに来てまねたのだ。竹内はビンと張ったパラフィン紙のまん中をハサミでつついて穴をあけ、そこに口を上からあてて吹いて見るのだ



がどうしてもブーという音が出ない。首をかしげてパラフィンをはずし、もう一枚もらいに来た。そして又やりなおしてみたがやっぱり音がでない。「チキシヨウ」とくやしがつたのでその声をきいて義彦が近より「こうやるんだよ」とみせた。じっとみくらべていた竹内は「そうか吹く所は、はじっこにしとくんだな」と言つて「よしわかった」ともう一枚パラフィン紙をもらつて作りなおした。そして四、五名ずつかたまつて、むすんでひらいてや園でうたうたやテレビのコマーシャルを吹いてあるいたのだ。

○ピンとはらないと音が出ない。

○まん中に穴をあけてもならないね。

○ぎゅっと吹いても音がとまっちゃう。

○つばきでぬれると音が出ない。

○紙が息でゆれて音がでるんだね。

○ビニールよりパラフィン紙の方がかるい音ができる。

○ふくところはかぶせないでカンとスレスレにパラフィン紙をはらないとならない。

などを発見し体験することができたのだ。

●はんこあそび

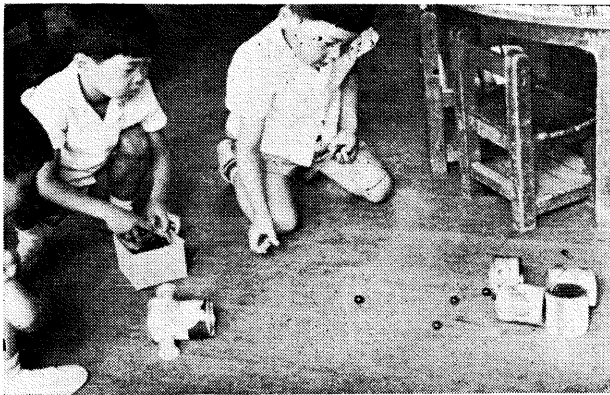
義彦はえのぐ絵を書いたあと、そつと絵筆にえのぐをしみこませ空カンの底にえのぐをぬり画用紙におした。大小の空カンにいろいろな色をぬつてはハンコ遊びをした。円のきれいな模様が画面いっぱいになると「すごーくきれいだ」と言いながらみんなに見せてあ

るいた。一〇数名がまねてハンコ遊びをしたのだ。

空カンとビー玉での遊び

●ビー玉のほら穴

義彦は室を広くして床の所々に大小種々のカンを横にねかしておき、一定の場所か



らビー玉をころがし入れる。義彦はビー玉を一度に二〇〜三〇個ころがし、ほうぼうにちらばりころがるのをながめ「それ敵がせて来るから早くかくれがにかくれろ」と言いながら次々にビー玉をころがす。「ほら穴に逃げ込みました」など、このひとり遊びは次々に仲間がふえ、春

①

美や勝明も参加してビー玉と空カンが室中にころがった。積木でカンが動かないようにしたり、横に二、三個ならべて、よく入り込むようにしたり、三、四名でちえを出し合って色々なかくれがが作られたのだ。(写真①)

○同じ大きさのビー玉なのにカンにぶつかった時の音はいろいろだね。

○大きいカンと小さいカンじゃ音がちがうね。

○いっぺんにいくつもぶつかると思えばいい音だね。

などとカンの性質をたしかめながら遊んだのだ。

●カンズメやさん(ままごと)

義彦は空カンの中にビー玉を入れ机の上にならべ「カンズメやさん、カンズメ」と室中にさげんだ。三、四名の女児が「くださいな」とすぐそれに答えて来た。「くだものですか、きかなですか、サンマにそれから……」と義彦もカンズメ屋になりきっている。カンにビー玉を入れたり出したりしてカンズメ作りをしては売っていた。ビー玉のカンズメを買った女児はすぐその足でママゴトコーナーに入り「さあ、モモをたべましょう」とか「さんまのカンズメでごはんですよ」とママゴトがはじまった。

義彦は画用紙に魚の絵やくだもの絵をカンズメのレッテルを見ながら描き、机の横にぶらさげ「今日は売り出しで、大安売り」と言いながら大きいカンと小さいカンを組合せ「これで一〇〇円、やすいでしょ」と大張り切り。牛乳のフタがいつのまにかお金にな

って売ったりかったり、たべたり、がなされたのだ。

●かいだんおりましたよ

空カンをさかにおいて階段を作った義彦はその上にビー玉をひとつずつころかしてみた。ビー玉はポトンポトンとリズムカルな音を立ててころがったりポトンとひとつだけでわきに落ちたりする。これをやってみて義彦は「かいだんおりましたよ」とくちずさんでいた。

○あんまり高くからころがすとポトンと大きい音がするけどすぐおっこちちゃう。

○そっところがすと下までおけるけど、とっても早くポトポトっていって「ン」がなしでおりちゃうね。

○力入れて上からおとすとビー玉がはずむね。ハントしてからころがるからおっこちちゃう、と首をかしげながら、くりかえし首をすくめて成功をよるこんでいた。

この遊びはビー玉の好きな鉄也や昇も加わり一週間位くりかえし遊ばれた。

○まがった(カーブ)階段はどうしてもころがらなくて、おっこちちゃう、と言ひ積木のかこいが出来たりしたが、どうとう曲った階段は成功しなかった。

●ハネビー玉

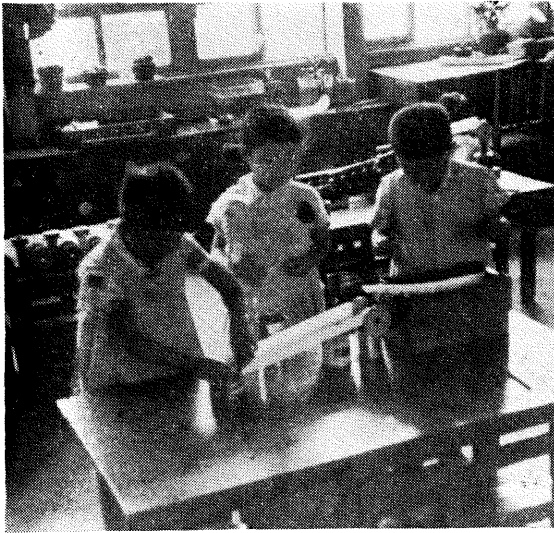
階段ころがして経験したビー玉のバウンドをくりかえし、たしかめている。カンを並べておき、上からビー玉をおとしバウンドさせ

②



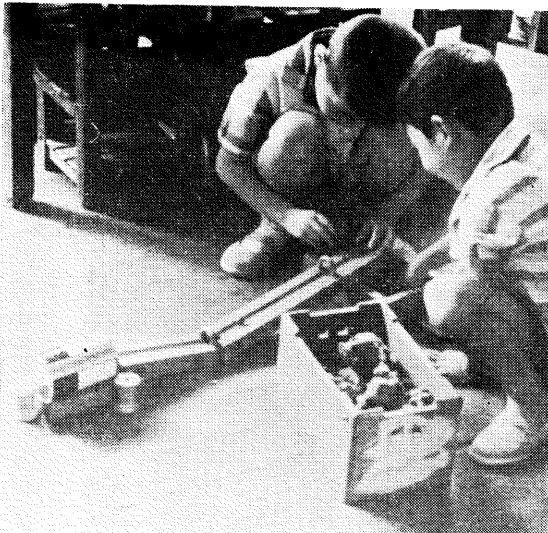
て、となりのカンに入れるという遊びを考えたのだ。
○力を入れてビー玉をたたきつ
けパウンドさせ

たり、高い所やひくい所からおとしたりしてくり返しているうちに、近くで見えていた竹内がそっとカンを積み重ね、パウンドして落ちるビー玉が下のカンに入るようにカンを重ね「こうやればいいでしょう。やってみな」と下から義彦を見上げた。(写真②)
義彦は「おもしろい、びょんびょこビー玉のマリみたいにはずむね」と言い「こんど竹内君やれば」としげんに交代して遊ばれた。
○小さいカンの方がよくはずむ。



③ ↑

④ ↓



○大きいカンドと中の方でホッホッっていうだけ。

○雨みたいにいっぺんにおとすと、たくさんはずむけどひとつずつやるとはずみにくい。など五、六名ずつかたまって遊ばれた。

●ビー玉受けや

坂の台

画用紙や積木の坂をころがし坂の先のビー玉受けにカンを付けたり坂の高さの台にした

りしたのだ。

○ビー玉受けは坂が急だし大きいカンじゃないとビー玉が出てしま
う。

○坂がひくいとうすいカンでもそっと入る。

○積木の坂より画用紙の坂の方がカンによく入る。

○カンの台の方が積木よりいろいろな坂ができる。(写真③④)

● ケーキやさん

女兒が三、四人集ってカンをさかさにし底にセロテーフでビー玉
をはりつけているのだ、そして「これは五〇〇円がいいわ」とか
「これはビー玉いっぱいつけて一〇〇〇円にするわ」など夢中にな
ってビー玉をはりつけている。

「ケーキやさんに、だれがなるの」と徳子が言うのと、そばで見えて
いた義彦は「ぼくやりたいな。ぼくも二個位つくらしてよ」と大きい
カンに小さくうすいのをかさねその上にビー玉をはりつけた。

中央にかためて三個おき、まわりにバラバラとにおいて「ワーきれい
なケーキだ」と、ほれほれしている。机の上に空カンのケーキをな
らべ「おたんじょうびのケーキですよ」とケーキやがはじまっ
た。女兒は「この子のおたんじょうびのくください。五〇〇円ですか」
とママコトといっしょに合流してたのしくあそばされた。

今まで義彦は女兒といっしょにママコトをすることはあまりな
かったのだ。

空カンと糸巻での遊び

ビー玉を空カンにセロテーフではりつけることを経験した義彦
は、空カンを積木のように重ねてセロテーフではり合せ、何かを作
ろうと目の色をかえて活動していた。自分の目的のためにはり合せ
るのがもどかしそうに、近よる友だちのだれかれかまわず「ちよっ
とおさえてよ」「ちよっともってて」と助けをかりていたのには驚
かされた。また義彦に声をかけられた友だちも電波にあったように
無言で助手をしたり手つだったりしていたのだ。

●ピストルとキカン銃

重ね合せた空カンの下に工業用ミシンの糸巻(8月号使用のもの)
をつけて机の上におこし糸巻をにぎって持ち上げた義彦はニコッと
笑った。そして空カンの上を目にあて「ババババ……」ときかん



銃をうつま
ねをし「ほ
らねできた
よ。うれ
しくてたま
らず皆に見
せてあるい
ては「ババ
ババ……」

⑤

とやっていた。(写真⑤)

うたれた者はろうかにおれ、机にたおれたりして、手のピストルで打ち返している。他の友だちも「義ちゃん見せてよ。ぼくもつくろう」といったぐあい。で学級全体の男児から一時は空カンと糸巻とセロテープですいついてしまったように、シーンとしずまりかえって空カンのピストルやキカン銃作りをした。

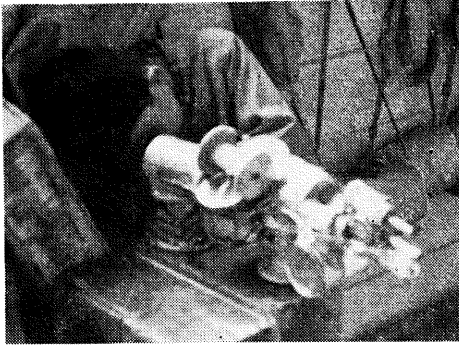
○義彦のようにひとつの経験が次の遊びを育ててくれる。

○ひとつの発案やくりかえしによる発見が他の多くの友達をしげきし、学級全体でひとつの目的に向かって活動できるようになる。

○どんな友だちの問いかけにも自然に答えてしまうという効果が見られた。

●大砲とピストル

義彦はろうかの大積木の上に空カンの鉄砲を乗せ、口の中で何か言いながらセロテープをはがしたりはったりしている。近よると「大砲にするんだ。大砲のほうがいいや



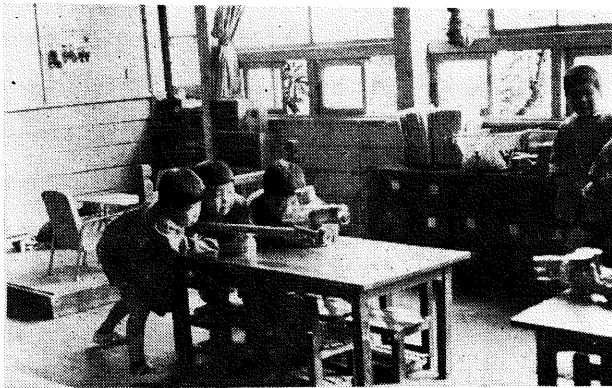
っつけられるもの」といいながら、セロテープで糸巻をカンにくっつけている。

○義彦の空カンでの遊びをみていると次の活動がちゃんと予定されているようにスラスラ展開していくのには驚かされた。

○でき上った大砲はバランスよく糸巻と空カンが組み合わされている。(写真⑥)

●長い鉄砲

義彦は大砲を友達にかしてあげ、次に工業用ミシンの糸巻(ボール紙の円筒型)を長くつなぎ、その下に空カンをくっつけて大砲とピストルと打ち合いをはじめた。長い鉄砲の先に小さなカンをつけて、ツツ先にしたりした。このピストルや鉄砲や大砲遊びは卒園す



るまであきることなく、はがしては付けして、くり返し遊ばれた。

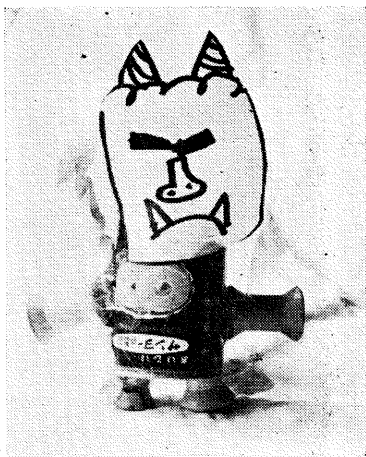
でき上っている鉄砲をそつといじって小さな声で「ババン……」
と打つて打つまねをしてみる女の子などがあらわれ、女と男の戦争
ごっこも展開された程だった。(写真⑦)

●動物園や人形作り

ピストル遊びが一段落した時、義彦は空カンに糸巻をくつつけ動物を作りはじめた。そして昇や竹内や康弘や鉄也をよんで「みんな動物園作ろうよ」と空カンの入っているダンボールのまわりにこしをおろして活動しはじめた。シッポに小さな糸巻をくつつけてかわいらしい動物ができ思わず笑い出したり、「ちよつとここおさえてキリンにするから」と糸巻をつなげるのを手伝い合ったりして八匹の動物を作った。鉄也の動物が糸巻の足の位置が不安定なためなかなか立たなかった。「チキショウ。まただめだ。おかしいな」と舌打ちしながら全部セロテープをはがしてやりなおしたり「まがるのだめなのよ。だから下にまっすぐおいてはれば」とまわりで見えていた明子の助けをかりてやっと立たた。できた動物を床にならべ積木でさくを作ったり糸巻で門をつけたり、ダイナミックな活動に発展していったのだ。活動がもり上った時は女兒も五名加わり一四名にもなっていた。

○動物園ができると義彦は「そうだ」と画用紙とマジックを持って来て人間の顔を描いて切りぬきカンにはりつけ糸巻で手足をはりつけ人間の大小(おとなや子ども)を作って動物園のまわりになら

⑧



べ「見
に来て
るんだ
よ」と
友だち
とたの
しそう
に話し
合つて
いた。

これを見ていた裕一は「わる者が入ってこないように、ぼくはオニを作つて、門の入口に立てよう」とオニの顔をかいてカンにはり付け、顔を切りぬいたのこりの紙をまるめて金棒を作つて、オニに持たせたりした。あまり、こわいオニができたので皆も「わーこんな
らしいや」と大よろこびをした。(写真⑧)

空カンと子どもたち

空カンの素材にたいする子どもたちの活動を見ていて私はビー玉や糸巻とちがう頑張る力を育ててくれたことと、ビー玉や糸巻とちがうくりかえしをさせてくれたことを強く感じたのだ。今回は学級全体でのくりかえしの活動でなく義彦のくりかえしと頑張りの力を中心に空カンによる活動の展開をながめてみた。

義彦はひとりっ子でわがままのため入園以来あまり友だち遊びが上手でなく、途中で遊びからはみ出てしまいがちの子だった。

○ビー玉糸巻の素材での遊びもよろこんで参加し、他の子より回数多く素材に接していた。

○空カンは他の子より強く興味を示し、ひとつの遊びを何回もくりかえした。

○くり返しているうちに前と同じくり返しでなく、何かちがった発展をさせている。

○前の経験を生かした遊びに発展している。

○今までへただった友だちとの交りが空カンが仲立ちになってスムーズにできるようになり友だちをリードできるようになくなった。

○創作活動に抵抗を感じ、描いたり作ったりすることをあまり好まなかったのだが、空カン遊びを経験してからは人が変わったように創作活動に熱中するようになった。

○また学級全体もビー玉、糸巻、空カンと三つの素材遊びを経験してからは絵画製作に抵抗を感じる子がいなくなったし、絵画製作をしたのしむ時間（活動のふかまり）が長くなり、ひとつの教材で長い間活動するようになった。

○義彦は活動に失敗するとくり返すことができず、ほうり出してしまっ子だったがビー玉や糸巻を知ってからその失敗をもとに遊びを発展させることを学んだのだ。

私が素材での遊びを経験するまでは一年保育児この時期ではまだ

絵画製作がにがての子が三、四名はいたのだった。今年は学級全体がどんな活動にもどんな教材にも体全体でぶつかっていきけるようになった。学級全体での成長は素材遊びによるくり返しの効果とくり返しによる頑張りの力が身について来た現れといっても過言ではないと、大きな自信をもつことができた。義彦はひとりっ子の特徴を身につけた移り気の子だったが、空カン遊び後はうつり気は全くなくなっていった。

ビー玉、糸巻、空カンと三種類の素材で子どもたちの頑張る力とくり返しを体験し、素材によって子どもから質のちがう失敗と頑張りの力を引き出してくれる事と、質のちがうくり返しと経験をさせてくれることを知らされた。

皆が廃品にしてしまう空カンが、例えば義彦のようにほんのわずかの間に見違えるほど頑張れる子にし、くり返しをよろこぶ子に育ててくれたことを身にしみて感じたばかりか、子どもたちの体の中には細胞の数程も頑張る力とエネルギーが潜んでいることを知ったのだ。そして私たち教師はもっと、もっと子どもたちの力を信じ、子どもたちが持っている力が出せるように、いろいろな素材を子どもとともに、さがし、あたえることの大切さを感じた。

素材によって経験する発展的な失敗とくり返しが子どもたちにねばり強さと頑張りの力を育てるのだ。

（足立区立関屋幼稚園）

幼稚園教育実習をめぐる諸問題

一 盛 久 子

一、大学教育における教育実習の位置づけの

面からみた問題点

(1) 教育の科学的研究方法の一環としての教育実習の重要性

従来、教育実習の重要性は、私たちがここでうんぬんするまでもなく、しばしば論ぜられ強調されてきました。そして、しだいに、その必要性が認められてきつつあります。

しかし、教員養成課程の学校の場合とはかくとして、観念的な教育学に対する批判として教育学の科学的研究という観点からは、一般的にいつて教育実習は、はっきりした位置づけが行なわれ、意義を明らかにするということは、なされていません。

ここで従来の教育実習についての考え方をあげてみますと、教師養成研究会編「観察、参加、実習（昭和三十八年度版）」では、教育実習の重要性について、①教育の実証的研究、②教育の教職的研究、

③教師の教職的資質の三点をあげています。このうち②と③は、教員養成という課題からきているわけですが、①は「具体的な人間関係」を対象としておこなわれる教育学の性格から出されていません。

この①の観点が、私たちは教育実習において重要であり、今後の教育実習をかんがえる上でかかせないものであると思いますが、従来は、この②と③だけがとりあげられて、①を見落してしまいがちでした。そのために教育実習は、教員養成学校でとりあげられるものであっても、一般の大学では、教育実習は、免許状を取得するために必修となっている一教科であるという認識にとどまっています。

また、①が見落される原因は、ただ認識の不足ということからきているばかりでなく、教育学の研究対象における教育実習の位置づけが不明確であるということも原因しています。

「実証的研究は、教育という学問が人間関係の学であるという性質からくる当然の研究方法である。真実のものは、この具体的な人間関係の事象に直接あたって、その真実を、探求するところに生まれる」(前掲書二頁)と述べているように、教育実習において実習生が、自ら大学で学んだ種々の教科の一般的な理論を、実際の場において検証してみることのみに終るのであれば、教育実習の重要性を、充分にくみつくしたことになりません。前掲書・序文二頁で「観察、参加および実習は、単に教職につく人の教養として必須な実地経験課程であるばかりでなく、教育学の重要な方法でもある」と述べているように、教育実習は、教育学の科学的な研究方法であるということを示す必要はないことです。

また、次の引用文からも、教育実習の重要性が、出されていると思います。

「教育実践が、教育研究の外側から何らかの道徳的色調を、教育学に加えるということでない。たんにきにいえば、教育研究の対象(教育の矛盾)は教育実践において初めて出現するからである」(五十嵐 眞「民主教育論」五二頁)とのべられていますように、教育学の科学的研究そのものが、教育実践によって実現するものであるとするならば(する必要があると思うのですが)教育実習の位置づけは、教育学の科学的研究の重要な一環であるとされねばならないでしょう。

私たちは、このように、教育の性質についての教育学の研究がすすむなかで、教育実習の重要性は、今後ますますはつきりとしてく

ることと思います。そして、これは見のがしてはならない根本的な問題であると思います。

(2) 諸教科の総合的教科としての教育実習

大学教育における教育実習の位置づけということを考える場合に、もう一つの位置づけの意義があるように思います。それは、大学で学んだ一般的教科科目、及び専門教科科目を基礎とした諸教科総合の一教科としての位置づけです。これは、教育実習の教育学的実証としての意義だけを意味するものではありません。

こういう教育実習のとりあつかいは、教員養成学校のみに必要なことでなく、特に、一般の大学における大学教育での位置づけとして必要だと思えます。大学での一般教科科目、及び専門教科目から、系統だった理論によって学習した一つ一つが総合されて、幼児を教育する科学的な技術なり、幼児たちへの教育的な働きかけの力となることは、見のがし得ないことです。

たとえば、幼児を観察する場合には、心理学的観察技術だけでなく教育学の理論が基礎としてなければ、教育によって変わりつつある幼児を観察することはできません。

ここに諸教科を総合しての一教科としての教育実習の意義があるとともに、大学教育における位置づけの意義があります。

(ここでのべたことは主として四年制大学での場合であり、短大については、この限りではないと思います。)

二、教育実習の体制的・面からみた問題点

(1) 時間的制約による問題

時間的制約による問題として次の三つが考えられます。

- ① 教育実習の準備段階が不十分である。
- ② 幼児たちの成長過程の把握が不可能である。
- ③ 経験内容の客観的な検討期間が不足である。

まず、①について考えてみますと、次の愛知県における名古屋市教育委員会から出された「名古屋市立諸学校における教育実習実施に関する参考資料」（昭和三十八年度）の表からも明らかかなように、一般的にいつて従来の大部分の教育実習は、短期間への集中であるといえます。

実習期間	1週間	1校
〃	3~3.5〃	1校
〃	2	14校

幼児の集団を対象とする幼稚園教育実習では、幼児たちと、実習生との短期間の接触ですぐ実習として、担任教師の代わりに教育の一部を実習することは、幼児たちの側にも実習生の側にも、障害が大きく、幼児たちは動揺し実習の効果が上がり得ないことはいうまでもないことです。

前掲の参考資料の中で実習側から出されている「実習期間は、原則として二週間以上にしてほしい」という提案は、幼児たちの動揺を少なくし、実習効果をあげる上からも当然のことであり、ぜひ必要なことです。また、実習の準備段階として、実習生と幼児たちとの接触が充分でないことだけでなく、実習園での

幼児の生活習慣を体得することが、不十分になりがちです。

②について考えてみますと、理論的に成長過程を学習してきた実習生が、教育実習の場で検証してみると同時に、そこで行なわれている系統的な指導によって成長しつつある幼児たちの生の姿を把握することは、非常に大切なことです。しかし、これを短期間に把握することは、幼児たちの動的な成長ぶりを理解したことにはなりません。このためには、ある期間をかけての時間的な条件が必要です。こういう点からも、従来の短期間に集中された教育実習は、見のがせない問題を持っています。

つきに、③の点について考えてみますと、従来の実習で、実習生が、つき当った疑問や、問題を大学へもち帰って理論的な裏付けをし、経験内容を客観的な立場で、検討してみる。そして、再び、実習の場にもどって、実習を続けるということが、できない場合が多いということです。しかし、実際の場合から問題をもち帰り、大学で学習するというこのような学習方法をとることは、実習生の学習意欲を鼓舞するためにも必要なことです。

以上、三つの点から考えましたように、短期間の集中実習は、教育実習を、さまたげる大きな問題をはらんでいます。

さらに、年間どの時期に、実習を行なうかという時期的な問題があります。前掲の名古屋市の参考資料で、「●学期始め、学期末のある期間（三週間程度）は、教育実習を受け入れない」と提案されていますが、これは当然のことといえるでしょう。

(2) 人的制約による問題

従来、幼稚園教育実習は、主として実習園の担任教師が、実習生の指導に当ることが、主となっております。このため四〇〜三〇名の幼児を指導するかたわら、実習生を指導するという労力の過重は、実習を、ともすれば担任教師の仕事の助言的立場をとらせ、教育技術についても、末梢的な技術の助言に終ることが多いようです。

又、教育が行なわれている瞬間の幼児たちの動きや、教育の現象を、瞬間的にとらえることを、指導することも、できないで終わってしまうようです。

(3) 場所的制約による問題

現在、多くの場合、教育実習を行なう場は、一つの幼稚園で実習を行なうことが多いということです。これでは、それぞれの特色を持った教育形態の違う幼稚園の実情を、把握することはできません。

現代の幼稚園教育という点から、それぞれ違った教育形態の背後にある幼稚園教育についての考え方を考察する機会をもつことは、広い視野を、養成する上からも大切なことです。

三、指導内容の面からみた問題点

(1) 指導の系統性

従来、教育実習をその内容の面から考察した場合、まず、問題点として指摘しなければならないことは、実習生に対して、系統的な

実習指導が、行なわれていないということです。中央幼児教育研究会編「保育実習の手引き」(昭和三八年度版)に、「科学的な基礎の上に組織的な指導計画をたてて系統立った実習をしなければならぬ」とありますが、現状では、時間的な制約もあり、「一種の徒弟見習いの教育で先近代的な職人養成」(教師養成研究会編、「観察、参加、実習」とのべているように、助言も、末梢的な小細工的技術の助言に終ることが多いようです。

では、系統的な指導とは、何でしょうか。すでに、教育実習は、いきなり実習生を、実習の場に入れて試行錯誤的に、学ばせるのではなく、観察から入って、次に参加し、その後で、本格的な実習に入るといふ基本的な体系が、たてられています。そして、それぞれについてのくわしい指導上のポイントが提出されています。(前掲書「観察、参加、実習」)

しかし、幼稚園教育実習としては、この体系をさらに細かい段階に分ける試案が必要です。観察では、その対象は何か、幼児個人、クラス教師……などを観察する場合、それを、どの順序に従って観察するのがぞましいのか。さらに、実習はまず部分的な実習から入り、一日の教育を全任もって実習するのであるが、まだこれでは不十分なために、二日続けて実習するなどの段階が必要です。そしてさらに細かく指導が考えられ、はじめから系統にのっとった指導が行なわれなければなりません。(昭和三九年保育学会年報参照)

たとえば、教育実習のための準備段階が終って実習にすすんだ場合、実習生が、はじめに一対集団で、幼児たちの前に立った時、何

を指導するのか、担任教師にとっては、助言したいこと、注意して
実習してほしいことが、多々あることでしょう。しかし、この段階
では何を助言する必要があるのか、次の実習の機会には、何をホイ
ントとして指導するのか。それぞれの段階に実習生の側から必ず出
てくる問題点は何か。これを、理論上からも選別し、系統づけるこ
とがまず必要です。

同じ実習を行なっても、はじめの実習の時に注意するより、二回
目三日目の実習の時に、注意した方が、効果的であるということ
は、しばしばあることです。

(2) 科学的な技術の習得

科学的な基礎の上のつとった技術を教育実習で習得すること
は、むずかしい問題でした。前で教育実習に、系統的な、指導の必
要性を述べましたが、系統的に選別される一つ一つは、教育技術で
あり、当然、理論的にうち出された技術であることです。

教育が、教育実践の中から研究がすすめられる過程の中で、科学
的な教育学が、研究されていくように、教育実践である個々の細か
い教育技術から、それを実証し理論づけていく中で、科学的な技術
を習得する必要があります。

たとえば、実習生が、幼児たちの前に立って話し合いをする時、
実習生の立つ位置、幼児たちの椅子の配置、実習生の声の大きさ、
高低、話し合いの持続時間などすべて、適当である位置、距離、幼
児たちに安定して聞こえる声の大きさ、幼児たちの年齢、人数に適

した持続時間など科学的にそれぞれ安定する心理的根拠のもとに、
求めることができるはずで

これを、実習指導の指導者の主観的なこつや、客観化され得ない
技能を、体得させるに終ってはならないことです。

一つの助言は、助言として終らせずに、その奥にある科学的根拠
を、認識させた上での指導でなくてはなりません。

(3) 実習中または、実習終了後の反省会のあり方

実習した後で、実習の効果を、高めるために、反省会という形で、
実習後の総合的な指導の会が開かれることが多いようです。

従来教育実習では、実習生が、指導される側としてただ一方的
な指導が行なわれることのみによってしまふことには、問題があり
ます。もちろん、実習生は、実習園の教育方針に即して実習に入る
ことが、大切な前提であります。これと同時に、実習生間の（指
導官を含んで）実習内容または、実習技術についての討論が、教
育実習における学習効果をあげる上で、また、教育実習のあり方と
いう点からも必要であります。というのは、実践したことを、もう
一度それぞれの立場や見方で、より正しい認識的把握をするには指
導者側からだけの助言や指導だけでなく、実習生相互の討論がなけ
れば体得できないからです。

（愛知県立女子大学）

参考文献

- 教師養成研究会叢書「観察、参加、実習」（昭和三八年増訂版）
中央幼児教育研究「保育実習の手引き」（昭和三八年版）
五十嵐 顕著「民主教育論」青木書店

幼稚園教育に対する母親の意見

稲毛 教子

最近、有名小学校入試のための準備教育がさかんで、幼稚園の準備校化がなげかれているが、本年三月に発表された「幼稚園教育要領」によると、幼稚園はやたらに知識をつめこむことはやめて、のびのびと遊ばせ、その中でしつけ教育をやり、豊かな人間形成の基礎を作ろうというのが一貫した精神のようである。しかし、教育方針というものは、親の意向を無視して打ち立てられても、その方針はつらぬかれるものではない。

しかしながら、親の教育に対する意見は一般にその視野が狭く、また、教育に対する意識も低いといわれる。数年来の幼児教育を重視する風潮の根底には、真に子どもの発達・教育に対する理解があるのか、それともよい小学校に入れるためのものなのか、一般的に母親の幼稚園教育の意図を明らかにするために都内二三区に居住する年令二〇〜五九才までの主婦をランダムサンプリングにより抽出し、

本年一月に実施した。母親、または母親になりうる人といっても、その年令・環境などによって、その意見は当然異なるものと思われる

表 1 標 本 特 性

属 性	区 分	人数	%
年 令	29才以下	112	23.9
	30~39才	171	36.5
	40~49才	123	26.2
	50才以上	63	13.4
所 帯 主 業 職	自由・管 理 職	65	13.9
	専門・技 術 職	70	14.9
	事務・自営・サ	155	33.0
	商工自営・サ	109	23.2
	ヒラ職	53	11.3
	その他職	6	1.3
所 得	無	9	1.9
	NA	2	0.4
	3万円未満	25	5.4
	3~6万円	278	59.3
	6万円以上	132	58.1
	NA	34	7.2

表 2 幼稚園は必要だと思うか

必要だと思う	412人	87.8%
必要だと思わない	27	5.8
どちらとも思わない	26	5.5
NA	4	0.9

図 1 年齢別にみた幼稚園必要性に対する意見

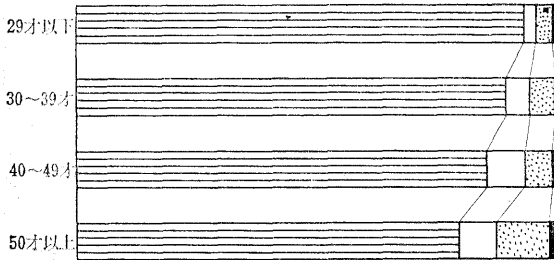


図 2 職業別にみた幼稚園必要性に対する意見

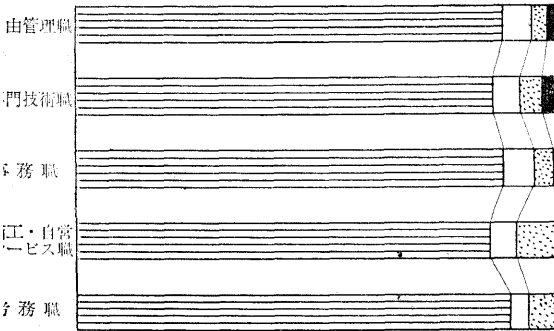
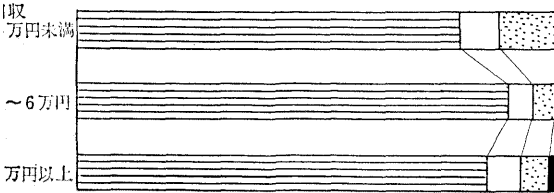


図 3 所得別にみた幼稚園必要性に対する意見



必要だと思う
 必要だと思わない
 どちらとも思わない
 無回答

る。そこで、今回は母親の属性のうち、年齢・所帯主職業・月収の三つを中心に意見を分析した。
本調査の対象となった四六九名の特性は、表1に示す通りである。

幼稚園必要性に対する意見

東京都には幼稚園といわれるものが、八五五あり、幼稚園児は一・二八八三名となっている（昭和37年度都総務局教育統計概要）のをみても明らかであるが、「幼稚園は必要だと思いますか」とい

う質問に対し、表2に示すごとく全体の約88%が必要だと思うという意見であり、もはや、幼稚園は必要な機関として受け取られている。それではこの現象から、小学校教育の若年齢への移行といえるだろうか。この点については次の「なぜ幼稚園が必要か」という理由で述べるが、その前に幼稚園必要性の意見を親の属性別にみると、図1のごとく、より若い年齢層の方が必要だという意見が多いが、職業別には図2のごとく職業による差はなく、どの種の職業の家庭の主婦であろうと意見にはかわりがない。所得別には図3にみる

表 3 幼稚園必要の理由

まかせておけばめんどうでないから	19人	4.6%
母が勤められるから	4	1.0
近所に遊び相手がない場合	23	5.6
集団生活は必要だから	270	65.5
教育は小さい時から必要だから	77	18.7
特殊な小学校に入れるため	3	0.7
その他	11	2.7
NA	5	1.2

ごとく、月平均三万円未満の所得層の方が、より高い層よりも必要だという意見がやや少ない傾向である。
 以上を概括すると、幼稚園というものはやや特殊な階級のためにあるのではなく、ごく一般化されていることを示している。

幼稚園必要の理由

「なぜ幼稚園は必要だと思いますか」という幼稚園必要の理由に對しては、表3のごとく「集団生活は必要だから」という理由が約65%を占めており、次に「教育は小さいときから必要だから」が約19%である。「まかせておけばめんどうでないから」「近所に遊び相手がない場合によいから」

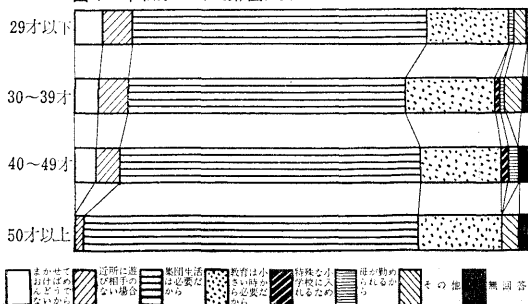
「特殊な小学校に入れるため」「母が勤められるから」などの意見に對しては反応が少ない。すなわち、幼稚園という存在を託児所的感覚や、教育する所、小学校の予備校という感覚でみているのが、比較的少ないといえよう。
 これらを見ると、多くの

表 4 何年保育がよいと思うか

1	年 保 育	129人	31.3%
2	年 保 育	248	60.2
3	年 保 育	33	8.0
	NA	2	0.5

母親は幼稚園というものは、教育するためというよりは、生活をさせるために必要だというように、小学校教育と違った理由で、必要性を認めている。しかし、本当に子どもの発達特性を十分理解しているから、以上のような意見が多く出たといえるかどうかまでは言及できないにしても、現象的には、親は幼稚園教育のあり方を、かなりの確にとらえているのではないだろうか。
 年令別には図4にみるように顕著な傾向はみられないが、職業別にみると、幼稚園必要性の意見に對し職業による差はみられなかつ

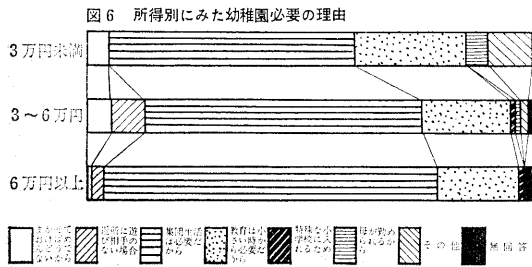
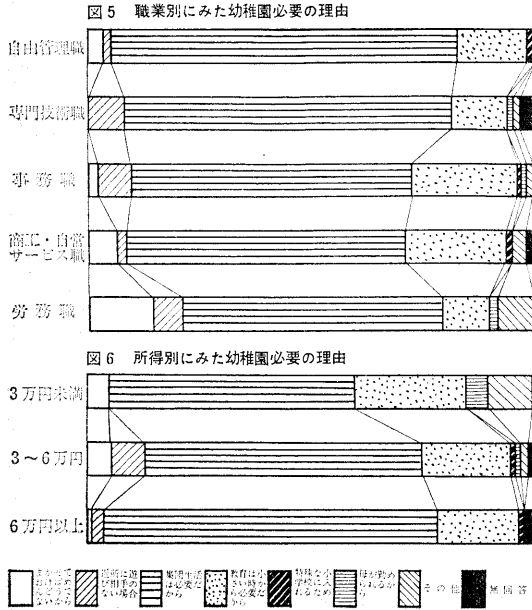
図 4 年令別にみた幼稚園必要の理由



たのであるが、図5の必要とする理由については、職業によって意見が異なるのは興味深い。

集団生活は必要だからという意見は、自由・管理職・専門技術職に多く、逆に、事務職・商工自営職には、教育は小さいときから必要だからという意見が多く、労務職においては、まかせておけばいいという意見が他より目立っている。

所得別には図6のように、月平均六万円以上の所得層の方が、三万円未満の層よりも集団生活は必要だという意見が多いのに対し、



三万円未満の層は六万円以上の所得層よりも、教育は小さいときから必要だからという意見がやや多い。このことは、より所得の低い層の方が、教育のために幼稚園の必要性を論じ、なにか高所得層よりも切実な要求がみられる。

保育年限に対する意見

「何年保育がよいと思いますか」という保育年限に対する意見をみると、表4のごとく、全体の約60%が二年保育、約30%が一年保育、約10%が三年保育がよいという意見である。

ここで「幼稚園必要理由」と「保育年限」の関係をみると図10のごとく、集団生活は必要だからという理由で、幼稚園を必要とする人は保育年限は短い傾向を示し、教育は小さいときから必要だからという理由で幼稚園を必要とする人は、保育年限を長く考えている。

また、遊び相手のない子どもの場合、なるべく早く幼稚園に入りたいというので三年保育を望む傾向がみられる。

保育年限を年令別にみると図7に示すごとく、現在当面している親(30~39才)とすぐ前に経験したと考えられる親(40~49才)との間に若干の差がみられ、後者に一年保育がよいという意見が、他の年令層よりやや目立っている。

職業別にみると図8のごとく、保育年限に対する意見は顕著な差

図7 年齢別にみた保育年限に対する意見

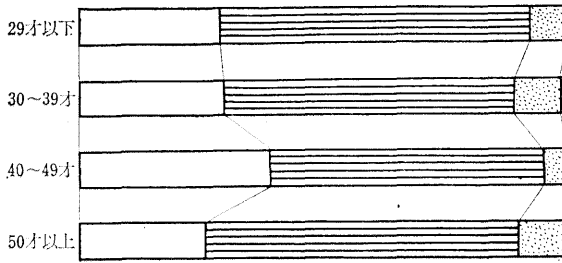


図8 職業別にみた保育年限に対する意見

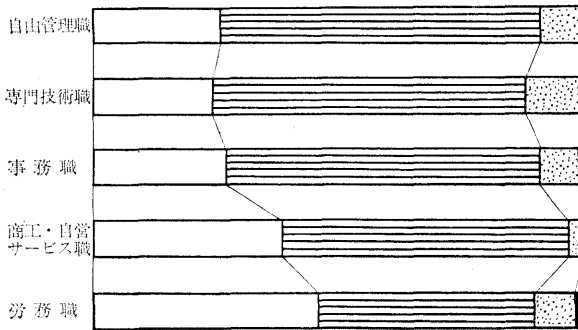
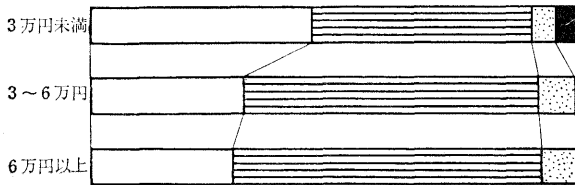
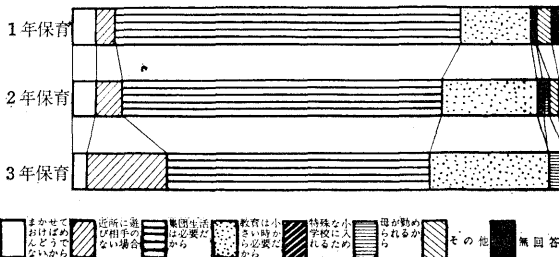


図9 所得別にみた保育年限に対する意見



□ 1年保育 ▨ 2年保育 ▩ 3年保育 ■ 無回答

図10 幼稚園必要の理由と保育年限



をみせ、商工自営・労務職の家庭の主婦は二年保育をよしとする意見が、自由管理職・専門技術職・事務職よりも少なく、一年保育をよしとする意見が他の職業層よりも多い。教育は小さいときから必要だ、という意見が他よりも多い傾向を示した商工自営・事務職の間で、保育年限に対する意見が異なり、商工自営職では事務職とくらべて、一年保育をよしとする意見が多い、ということは教育に対する意識の程度がみられておもしろい。

所得別には図9のごとく、三万円未満の層では高所得層より一年保育をよしとする意見がふえており、これは幼稚園はお金がかかるということ、保育年限は所得要因により多く規定されているようである。

(愛育研究所)

ヨーロッパの旅(六)

平井信義

ウィーンは、ぼくにとって憧れの町であった。この前に訪れた時は、ちょうど三月の初めでもあり、木々が芽生えるには早く、冷たい風で街路も凍てついている日が多くあった。それでも、友人山田君の案内で、ドナウ河を見おろす丘にのぼったり、夜は歌劇フレীদেরマウスやコミックを聴きにいったり、あるいはシュピール教授の主宰する実験学校を見にいたり、児童相談所を見学したりで、忙しい日々であった。その間、どこにいても親切を受けた思い出が、ぼくのころにはいつも暖かくよみがえってくるのであった。

今度の旅行でも、ウィーンでの日々には、東京を出発する前からの期待がかけられていた。ドイツを北から南東へと下って、ミューンヘンでの数日を過ごした後に、再び飛行機に乗って、一時間ほど東へ飛んだ。幸い天候に恵まれ、右手の窓からは雪を頂いたアルプス連峯が、脈々と続いているのが見えた。それらの山脈

が、やがてウィーンの青黒い森の影となって眼下に迫る頃、飛行機は高度を下げて、飛行場についた。

バスでエアターミナルにいくと、ホテルの案内所が設置されていて、若い男がすぐ応待にしてくれた。

「二人で二五〇〇円以下のホテルかパンションを求めているのですが……」

「バス付きだとないが、それでもいいのですね」

「ええ、朝食はついていきますか」

「朝食付きです」

「それでお願ひします」

「では、パンション・モーツァルト。これがいいでしょう」

「なるべく町の中央に近い方がいいのですが……」

「このパンションは、オペラハウスまで七、八分のところですよ。以前にウィーンに来たことがあるのですか？」

「ええ、一週間ほどいました。そこまで、電車だどのようなに
いったらよいでしょうか？」

「電車だとむずかしい。タクシーでいった方がよいでしょう」
私どもは、タクシーに乗ることを出きるだけ避けたかった。そ

れは、第一にお金がかかること、第二には町をおぼえるにはでき
るだけとぼと歩いたり乗ったりをまめにすることだったから
である。しかし、午後を有効に使わなければならない。早速、タ
クシーを頼んだ。

「パンション・モーツァルト、この町です」と、ぼくは、住所
を書いてもらった紙片を見せた。それに大きくうなずくと、タク
シーはゆっくりゆっくり走り始めた。鼻歌でもでてきそうな運転
振りが気に入った。

「オペラハウスから近いということだが……」と話しかけてみ
る。

「そう六、七分も歩けばいきますよ。いいところだ。静かで……」

「ウィーンはいい町だね」

「どこから来たのですかね」

「日本から……」

「前にも来たことがあるのですか……」

「左様」

「できるだけ、近道をしていきますよ」

それがサービスだと言いたげに、細い露路をまめに曲りなが
ら、二〇分ほど走って、三方に道が分れている角についた。

「この辺にあったはずだが……。ああ、あそこだ。看板がでて
いるでしょう」

なるほど、縦になった看板に、MOZARTと記されてあつ
た。その下に自動車をとまると、運転手はわれわれの荷物をおろ
してくれた。

「Danke Schön！」

家内もそれにならって、ドイツ語で「ありがとう」を言った。
チップを少しはすむと、運転手はにっこりして、

「たくさんお楽しみ下さい！」

といって、もう一度にっこり笑い、運転台にのり込んだ。

自動車が行き去る音をうしろに、われわれは、その建物の奥に
なったところにあるうす暗い階段をのぼっていった。古い建物
だ。白い壁はうすぎたなく、目の前に現れた二階の戸口も古めか
しい。そこに、パンション・モーツァルトと記されてあった。呼
鈴を押す。

扉の裏に足音がして、扉が開く。一六、七才と思えるおかつぱ
の女の子の顔が現れた。私が名乗ろうとすると、

「日本の方ですか、どうぞ！」

と行って、戸を締めると、われわれに鍵の束を示した。

「これが、この戸口の鍵です。もう一つが、お部屋の鍵です。

夜の十時をすぎると、一階の入口が締りますから、この鍵であけて下さい」

と一つ一つを、もう一度たんねんに示してくれた。

「わかりました。十時までは下がいているのですね」

その女の子は、われわれの先に立って廊下を歩き、左に折れた。そのつき当りがわれわれの部屋であった。

「いい部屋だ」

「広いじゃないの」

二人の満足した顔を見て、少女は微笑した。そして、鍵の束を渡してくれた。

「ありがとう」———そういいながら、ぼくはチップを渡す。ちよつとびっくりしたような顔をしたが、

「ありがとう」

と言い、すぐに部屋から姿を消した。

「ウィーンのが家。下宿、モーツァルト！」

といいながら、ぼくはベッドへ身を投げ出した。

「いい名前の下宿じゃないか！」

そう言うぼくのころには、ウィーン滞在に幸が多いことを望む気持があった。

「とにかく、昼飯を食べること、オペラの切符を買うことだ。ひと休みしたら、出かけることにしよう」と、ぼくは家内が疲れてはいまいかと、それを案ずる気持でいった。

「いつでも出かけるわよ」

家内は、疲れていないのだ———と語気を強めて言った。すでに、日本を出てから五〇日になろうとしている。ケルンの宿を出てから一〇日。いたわり、いたわれながらの旅である。

「じゃ、もう一〇分したら出発しよう」

ぼくは、目をつぶって、時の過ぎるのを待った。

オペラハウスの切符売場に行く、既に前売券は全部売り切れ。それも、けんもほろろの応答で、腹立たしくもあり、がっかりもしたが、その後、内田大使の御好意で切符が手に入り、「薔薇の騎士」と「リゴレット」の二晩をじゅうぶん楽しむことができ、再び、カーレンベルクの丘から、青々とした葡萄畑の下に、太陽に輝きながら流れていくドナウ河を見おろすこともできた。あるいは、婦人教会、モーツァルトの家、シェーベルク宮殿など…………。

さて四日目、われわれはウィーンの小児科教室に、アスベルガー教授をお訪ねすることにした。アスベルガー教授には、すでにケルンの小児科学会でお会いし、大体、一七、八日の頃にお訪ねす

る旨を話してあった。しかし、おられるかどうか——それをいぶかる気持もあったが、何としてでも「小児自閉症」の子どものことについて、いろいろとご意見を伺いたかったのである。婦人教会の近くのカフェーでコーヒーを飲みながら、そばにいたボーイさんに、病院に行く道をきいた。そのボーイさんは、よくわからなかつたらしかったが、常連の客なのである。斜めの椅子に腰をおろして同じくコーヒーを飲んでいた客にたずねている。

「それは簡単だ。八七番のバスに乗っていけば、近くでとまる」ということであつた。親切を謝し、教えられた通りの道順をとつて、十一時半に病院の玄関の前に立つことができた。

受け付けで、案内を乞う。年をとつた受け付けの看護婦が、若い看護婦を呼んで案内を命ずる。その人のあとに従つて、二階の教授室に行く。出て来た秘書に来意を告げると、

「午前中は、医師会の会合にでているが、十二時になると戻らずだから、それまで待っていてほしい」ということであつた。

ドイツでは、こうした突然の訪問を非常にいやがる。前回の滞独の折には、鼻であしらわれるような経験をしたこともある。アスベルガー教授と言えば、オーストリアでは小児科の第一人者であり、ヨーロッパでも名前をよく知られた人である。おそらく忙しいから、だであるから、ちょっとお会いしたら、そのあとは、自閉症について具体的にきくことのできる医局員を紹介してもらおうと

思つて、二人は椅子に腰をおろしたまま、時間のくるのを待つていた。約一時間もした頃、教授が入つてきた。秘書が飛んでいつて、われわれのことを告げる。大きくうなずいた教授は、家内とそして私と、次々と握手をした。

「ちょっと待つていて下さい。先に用を片付けますから……」といつて、忙しそうに教授室へ秘書を従えて入つていかれた。また、ひと時がすぎた。忙しいのに、悪かつたかな——と思つているところへ、長身でやや猫背の教授の姿が現われた。

「私は、これから食事に家に帰らなくてはなりません。が、三時にここへ来ます。そして、お二人を連れて、『子どもの村』へ案内したいと思ひます。三時に、この部屋へおいで下さい」

「お忙しい中を、あなたのお仕事を妨げるようなことはないでしょうか？」

「いいえ、ちょうど、子どもの村へいく日なのです。ちょうどいいところへ、あなた方が来て下さつたのです。では、三時に」と、再び家内と握手を交し、私の手を握つて、入口から出ていつた。

病院の近くのレストランで食事をすませると、再び病院の構内に戻り、人気の少い裏庭のベンチに腰をおろした。あと、一時間ある。ぼくは、ウィーンの空を仰いだ。

木々の梢から日が射してくる。からつとは晴れていないが、日

射しは暖い。風がそよいで枝がゆれるたびに、木の葉がさらさらと舞い降りてくる。名も知らない鳥が何羽か、あちらの枝、こちらの枝と飛びかっている。その羽音に従って、黄色くなった木の葉が散ってくる。

「よかった、待っていたかいがあった」とぼく。

「でも、待ちくたびれたわね。三時から、どこへいくんですって？」

「子どもの村だって。きつと養護施設だろう」

「どこなんでしょう」

「さあ？ 疲れたのかい？」

「大丈夫！」

その一時間は、ずいぶん長いように感ぜられた。目をつぶったり開いたりして、青い空をいくたびか見た。ウィーンの空であった。

三時に教授室へいくと、間もなく教授の姿が現われた。

「さあ、いきましよう。南へ一時間ほどいったところに、『子どもの村』があるのです。私の車でいきますから……」

教授は階段をどんどん下りて、病室の陰においてある自動車のところへいき、鍵をあげて出発の準備をした。いよいよ出発。

北に位置する病院から、ウィーン市内の環状道路を抜けて教授が運転する自動車は、南へ南へと下っていく。

「毎週一回ずつ、子どもの村にいかれるのですか？」

「そうです。子どもの村の子どものための、精神医学的な管理をしているからです」

「教授ご自身で、それをなさっているのですか？」

「そうです。私の楽しみな仕事のひとつになっています。子どもの村には、家庭から離された不幸な子どもたちが生活していますので、いろいろな問題があるのです。それを解決するお手伝いをしていなのです。あちらには心理学者やケースワーカーや学校の先生方がいますが、その方々から相談を受けた子どもについて、考える役目です」

「それは、すばらしいことですな」

「私も、そう思っています」

自動車を走らせながら、アスベルガー教授はときどき町の名所について説明して下さる。町を出ると、幾つかの村を抜けた。

「アルプスがちょうど終る山麓に、子どもの村があるのです。目の前にその山が見えて来ました。あれです！」

ヨーロッパの晩秋は、暮れるのも早い。四時を過ぎる頃には、街灯がぼつんぼつんとともりかけていた。その部落をはずれたところに傾斜になった土地がひらけ、点々とモダンな家が現われはじめた。

「さあ、来ました」

エンジンの音高く、一気に坂をのぼると、一軒の平家の家の横に自動車はとまった。教授のあとに続いて、われわれもその家の中に入っていった。公共の建物としては小さなもので、むしろ一軒の家といった方がよかった。中に三、四人の男女がいた。教授との握手がひと通り終ると、われわれとの握手。そして、ただちに、ケース会議が始まった。それぞれが担当している子どもについて説明する。「そう」とか「なるほど」とか相づちを打ちながら、教授が耳を傾ける。特に問題のある子ども二人が、電話で呼ばれて部屋に入り、教授の前に立たされる。教授は、握手をしたり、肩に手をかけたりしながら、子どもにいろいろなことを質問する。一人の子どもは途中から泣き出してしまった。

「泣かなくなってきたいい。泣かなくなってきたいい。これから強くなつて、世の中のために大いに働くのだろう。いい子だ、いい子だ」そして頭をなでられている子どもは、小学校二、三年生ぐらいの子どもであった。

その子がでていくと、教授は私の方を向いて言われた。

「国際結婚から生れた子どもなのですが、両親の関係がうまくいっていないのです。母親は、あの子を好いていないのです。ですから、いろいろの問題を持っているのです」

と、肩をすくめて、悲しそうな顔をした。

「日本では、国際結婚の問題は非常に少なくなつてしまいまし

た。終戦後しばらくは多かつたのですが……」

「そうでしょうね。これは、われわれの国々に特有な問題かも知れませんが」

ケース会議の途中で、われわれは事務の人の案内で、点在している建物を次々と見ていった。養護施設とはいえ、一軒一軒になっていて、六十七人の子どもたちが、一人の寮母さんによって面倒をみてもらっている。食事もその寮母さんが作るし、子どもたちと買ひものにもいく。一定の金額が寮母さんに渡されて、それで独自の運営をするというのである。兄弟はいっしょの家に住むようにしてあるともいう。あくまでも、家庭に似た仕組みを維持しようというねらいを持っている。

行きかう子どもたちは、遊んでいる者もあれば、買物から帰ってきたらしい者もあり、ケンカをしている子どももあった。

子どもの村を出たのがすでに六時。病院に帰って来たのが七時すぎ。「治療教育病棟」の主任の医師が待っていてくれた。教授とお別れしてからさらに二時間余り、小児自閉症その他の子どもについて、いろいろと話し合うことができた。

翌日、われわれは大きな思い出をたずさえて、ウィーンを出発した。

×

×

幼児の教育 第六十三卷 総目録

〔論 説〕

(執筆者) (号)

幼児教育の今後の進展にのぞむ	山下俊郎	1	不安定に耐える力を養うこと 教育計画における柔軟性の必要について	坂元彦太郎	10
幼稚園教育にかんする諸問題	松村康平	1	「ねらい」と「内容」と「活動」 幼児教育の組織について	津守 真	10
幼児教育振興に対する主張	古木弘造	1	望ましい性格の形成 都市と幼児教育	荳司雅子	11
幼児教育への期待と展望	五島貞次	1	都市と幼児の健康 幼児と都市計画	松本幸久 井上 孝	11
今日の幼稚園と明日の幼児教育	藤田復生	1	幼児教育と教具 幼稚園教育に対する母親の意見	牛島義友 稲毛教子	12 17
現代世界に生きる幼児と教育	高崎 毅	2	〔新教育要領〕 幼稚園教育課程の改善について	大西憲明	1
幼稚園教員の養成について	多田鉄雄	3	幼稚園教育要領の改訂案をみて		
幼稚園と保育所の将来	高橋さやか	3			
幼稚園、保育所、家庭	牛島義友	5			
相対的独立の認識	松村康平	8			
幼児教育における積木の重要性	昇地三郎	8			
準備教育について	山下俊郎	9			
			改訂教育要領案をよんで	山村きよ	2
			幼稚園教育要領改訂案をみて	帆足喜与子	2
			私立幼稚園と改訂案	友松あきみち	2
			健康・社会・自然を中心に	角尾 稔	2
			幼稚園教育要領改訂案批判	日名子太郎	3
			幼稚園教育要領に思う	副島ハマ	3
			幼稚園教育要領改訂案批判	堀内康人	3
			幼稚園教育要領改訂案説明会の状況について		3
			西部地区幼稚園教育課程研究協議会状況報告		4
			新幼稚園教育要領について		
			「教育課程」と「指導」	坂元彦太郎	6
			「社会」の領域について	三木安正	6
			「言語」指導上の問題点	角尾和子	6
			「自然」領域指導の問題点	大場牧夫	6
			「音楽リズム」の領域について		
			自然の領域を中心にして	神沢良輔	1
			幼稚園教育要領と保育所	秋田美子	1
			幼稚園教育要領改訂案をみて		
			教育手段と教育効果の関係	平岡 節	1
			幼稚園教育要領改訂案をめぐって		
				荳司雅子	2

安藤寿美江

6

幼児の役割あそびについて

その問題点と指導法を中心として

神沢良輔・前田正子・亀井貞子

伊藤智恵子・疋田房子・井上公子

幼児集団の発展過程に関する

一研究

野口はつ江

10

紙製作材料の基礎知識(一)(二)(三)(四)

佐藤 諒 7・9・10・12

昇地三郎

12

〔保育内容〕
△健康・運動▽

都市生活と幼児の健康教育

幼児の健康上の問題

都市と幼児の健康

△社会▽

幼児の非行

幼児期における性差とその指導

幼稚園児のリーダーシップ訓練

について

けんかを通して幼児の社会性の

指導を考える

基本的生活習慣をどのようにし

て育てるか 千代田区立富士見幼稚園

ガンバリの力を育てる遊びと素材

(その一) ビー玉

(その二) 糸まき

(その三) 空カン

新幼稚園教育要領について

「社会」の領域について

幼児の集団生活態度の発達と

指導の段階 千代田区立富士見幼稚園

7

6

12

7

△教材研究▽

砂場三郎

7

協議会「長等幼稚園プランをめぐって」

長等幼稚園

5

紙製作材料の基礎知識(一)(二)(三)(四)

佐藤 諒 7・9・10・12

昇地三郎

12

製作のための材料・素材の基礎知識(一)

砂場三郎

12

保育教材のアイディア

幼児教育と教具

牛島義友

林 健造

12

12

12

12

〔カリキュラム・保育一般〕

新学年の私の組の計画と抱負

力いっぱい育てる

幼児の姿から見通して

子供に発展の場を

継続するあそびの計画と実践

保育日誌から

発表会を中心にしたあそび

継続する遊びの計画と実践

製作から、ごっこ遊びまで

新しい幼児教育の実践

長等幼稚園プラン

幼稚園参観記

「あそび」の指導の実践的研究

5

5

5

5

5

5

幼稚園の一年間

お茶の水女子大学附属幼稚園

幼稚園教育課程の実践的研究

幼児の成長体系を求めて①・②

大津市立長等幼稚園

三才児保育の研究

都市幼児の保育

団地の幼児

〔特殊・治療教育〕

三才児の情緒障害

その現状と解決策について

幼児の吃音について

暴れっ子と黙りっ子

幼稚園になれにくい子どものあ

つかい方

マターナルデプリベーションに

おける特別保育(一卵性双生児

をもちいての事例研究)

幼児期における言語障害児の導

〔発達心理〕

児童発達講座⑧⑨⑩⑪

⑧乳児期の母子関係

⑨乳児保育の諸問題

⑩乳児前期の身体発育と運

動機能

⑪幼児前期の社会性の発達

知能指数の変化に関する研究

〔保育者〕

創造性のある教師になるために

築立ちゆく先生へ

幼稚園教育実習をめぐる諸問題

母の会のもち方の技術

〔家庭教育〕

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

母の会の計画

津守 真 4

千羽喜代子 9

丹羽淑子 11

小林治夫 10

片岡靈恵 1

沼館正尾 3

一盛久子 12

関 計夫 2

青木泰子 2

大泉テイ子 3

久保いと 10

角尾 稔 1

世界の教育とところどころ

欧米における幼児教育の印象

ケニヤに使用して(一)(二)

南信子 10・11・12

村山伊之助 3

宮内 孝 7

〔国内事情〕

福岡県における幼児教育の現状

北海道の幼児教育の現状

〔研究会・大会報告〕

西部地区幼稚園教育課程研究協

議会状況報告

日本保育学会シンポジウムから

日本の幼児保育制度

第一七回日本保育学会シンポジウム

黒木道子・木村栖静 3

小林幹夫・大上真宏 9

〔雑〕

せむしガード 1

ヨーロッパの旅(一)(二)(三)(四)(五)(六)

平井信義 4・5・6・8・9・12

平井信義 7

斉藤先生とほく 山村きよ 8

教育図書紹介 10・11

洋書紹介 11

別冊

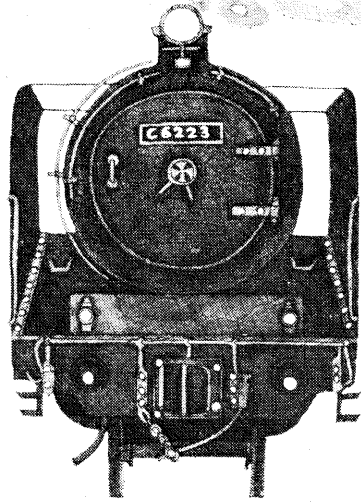
キングダムブック

物語絵本

冬

きしゃものがたり

超特急を代表とする電車が走りまわっている鉄道の片隅で、さみしく汽車は最後のご奉公。



え・文／松永謙一

定価 50円

幼児の教育 第六十三巻 第十二号

十二月号 © 定価六〇円

昭和三十九年十一月二十五日 印刷

昭和三十九年十二月一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

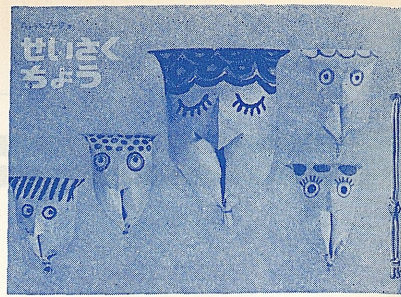
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

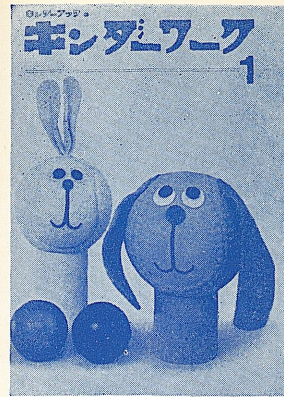
◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。



自由画帳 (特2)



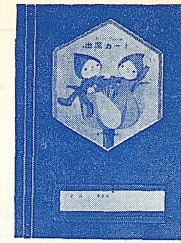
せいさく帳 (特2)



キンダーワーク (1)



キンダーワーク (2)



出席カード (特)



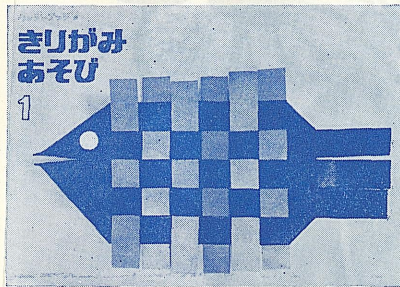
出席カード (並)



園のたより

新しいアイデアが生んだ

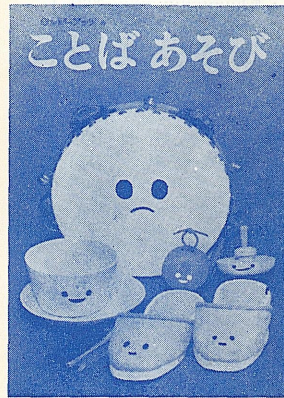
たのしいワークのかずかず!!



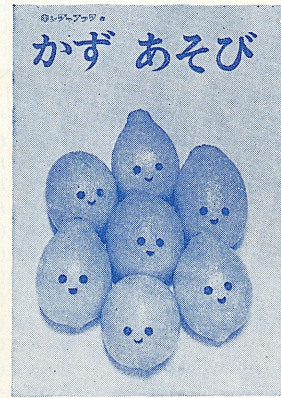
きりがみあそび (1)



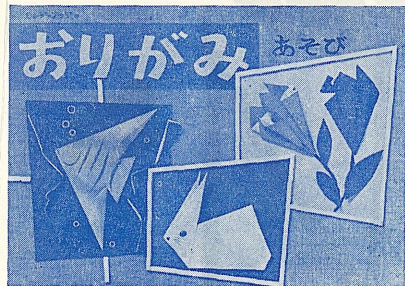
きりがみあそび (2)



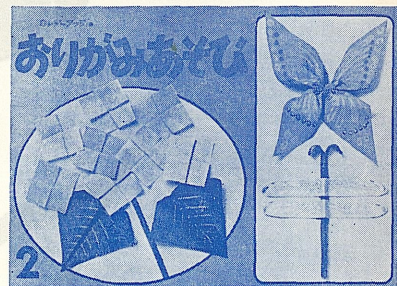
ことばあそび



かずあそび



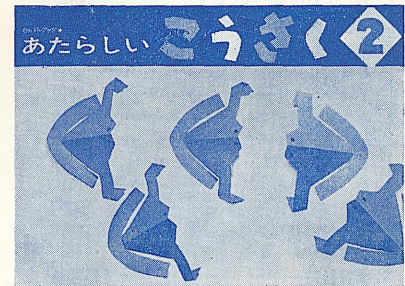
おりがみあそび (1)



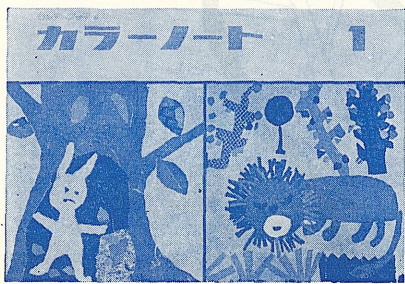
おりがみあそび (2)



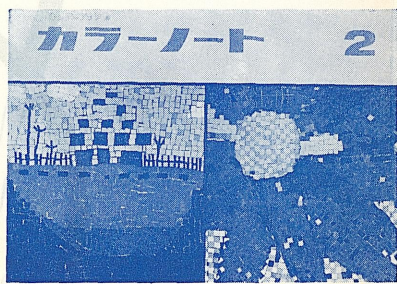
あたらしい工作 (1)



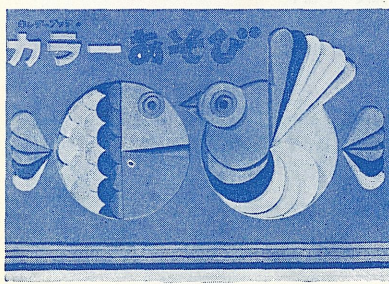
あたらしい工作 (2)



カラーノート (1)



カラーノート (2)



カラーあそび



ステレオかみざいく

40年度 新学期用品

	納入価格
出席カード(特).....	80円
出席カード(特)用貼紙.....	250円
出席カード(並).....	55円
出席ゴム印(木箱).....	360円
出席ゴム印(紙箱).....	300円
出席カード(並)用貼紙.....	250円
園のたより.....	30円
つうえんブック.....	30円
自由画帳(特A)ラセン.....	100円
自由画帳(特1)ラセン.....	70円
自由画帳(特2)クロス.....	70円
自由画帳(A1)ラセン.....	55円
自由画帳(A2)クロス.....	55円
自由画帳(A3)リボン.....	55円
自由画帳(A4)クロス.....	50円
自由画帳(B1)リボン.....	40円
自由画帳(B2)クロス.....	40円
せいさく帳(特A).....	120円
せいさく帳(特1).....	75円
せいさく帳(特2).....	75円
せいさく帳(A1).....	65円
せいさく帳(A2).....	65円
カラーノート(1).....	60円
カラーノート(2).....	60円
カラーあそび.....	70円
きりがみあそび(1).....	65円
きりがみあそび(2).....	65円
ステレオかみざい.....	65円
おりがみあそび(1).....	65円
おりがみあそび(2).....	65円
楽しいお仕事(カード1).....	60円
楽しいお仕事(カード2).....	60円
あたらしい工作(1).....	60円
あたらしい工作(2).....	60円
工作カード.....	80円
キッズワーク(1).....	65円
キッズワーク(2).....	65円
ことばあそび.....	75円
かずあそび.....	75円
あそびとちえ.....	100円
たのしいせいさく.....	100円
証書用ビニール筒(青・赤の2種).....	60円
保育料袋.....	2円50銭
綴込表紙.....	60円
まんてんばすてら(16色).....	90円
まんてんばすてら(12色).....	70円

	納入価格
まんてんくれよん(16色).....	90円
まんてんくれよん(12色).....	70円
まんてんくれよん(10色).....	60円
まんてんくれよん(8色).....	50円
折り紙(大).....	45円
折り紙(小).....	35円
まるい折り紙(A).....	50円
まるい折り紙(B).....	50円
まるい折り紙(C).....	50円
まるい折り紙(D).....	50円
お道具箱(紙製・特).....	60円
お道具箱(紙製・並).....	50円
お道具箱(木製).....	100円
お道具箱(プラスチック製).....	200円
はさみ(大).....	70円
はさみ(小).....	50円
ボール切りはさみ.....	65円
キッズカーネーション(大).....	50円
キッズカーネーション(小).....	25円
キッズカーネーション板.....	60円
キッズカーネーションケース.....	55円
組別名札(紙製).....	4円
組別名札(プラスチック製・特).....	20円
組別名札(プラスチック製・並).....	10円
びんくま(給食)カップ.....	70円
びんくま(給食)プレート(小皿).....	70円
びんくま(給食)プレート(大皿).....	110円
びんくま(給食)ランチプレート.....	280円
キッズバッグ (赤・青・黄の3色).....	400円
キッズクッション (赤・青の2色).....	300円
安全色レインシューズ (14.0cm・15.5cm).....	260円
(16.5cm・18.0cm).....	350円
(19.0cm).....	500円
園児用上履(14.0cm・15.5cm・ 16.0cm・18.0cm・19.0cmの5種).....	170円
安全色レインコート (特大・大・中).....	400円
保険つきレインコート (特大・大・中).....	620円
安全色帽子 (大・中・小).....	220円
保険つき帽子 (大・中・小).....	195円

その他、証書・賞状類、出席簿・保育日誌・卒園台帳などの事務用紙類は、新たに
ヨコ書きのものも加えて、各種とり揃えました。詳しくは、カタログをご覧ください。

●ことしも フレーベル館の新学期用品を



年末年始の
贈物に好適です

トッパンの シートン動物記

幼児から小学生までの好絵物語
世界で初めての
絵で見るシートン動物記

■ 絶賛発売中 ■

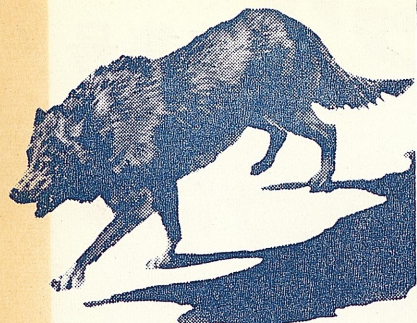
1. オオカミ王 ロボ
2. 灰色グマ ワープの冒険
3. ぎざ耳小僧
4. 銀ギツネ物語
5. 峰の大將 クラッグ
6. あぶく坊主

以下続刊

* B 5判80頁ケース入豪華本

全12巻＝各巻490円

全巻ご予約の方には、第7巻配本と同時に美しい
ブック・エンドを進呈します。全巻揃 5,880円



「オオカミ王ロボ」より



「灰色グマ ワープの冒険」より



「ぎざ耳小僧」より

株式会社

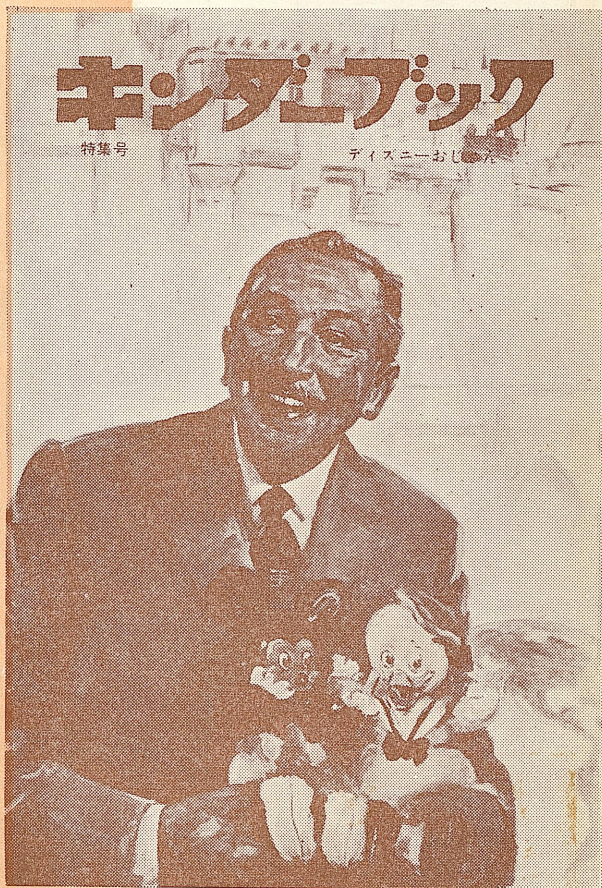
フレール館

東京都千代田区神田小川町3の1
電話 東京 (291) 7781~5

キンダーブック 特集号!

● デイズニーおじさん ●

この号はキンダーブック五〜六才用12月号として発刊いたしますが、ご要望により特集号として別途発刊いたします。キンダーブック五〜六才用を購読されないお子さん方には是非おすすめ下さい。



© Walt Disney Productions

— 漫画と記録映画の王様
 ウォルト・デイズニーの
 伝記絵物語 —
 — 幼児の絵雑誌としては
 キンダーブックが
 はじめてとりあげた
 画期的な企画 —
 — あなたのお子さまに
 そして近所のお子さまに
 年末年始の贈物として
 絶好の絵雑誌
 キンダーブック特集号を
 どうぞ —

66